

令和5年度大学教育再生戦略推進費  
「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」の申請について

代表校名 (連携大学名)	近畿大学 (大阪公立大学、神戸大学、関西医科大学、兵庫医科大学) 計5大学
事業名 (全角20字以内)	阪神5大学サステナブルがん人材養成プラン

# 事業の構想等

【様式1】

1. 全体計画 ※事業の全体像を示した資料(ポンチ絵A4横1枚)を末尾に添付すること。

## (1) 事業の構想

### ①事業の概要

〈事業の概要〉(400字以内厳守)  
第1～3期が**がんプロで育成された人材**が事業の中心を担い、5大学9学部が連携してがん治療・予防の進歩に対応出来る人材を養成する仕組みの確立を目的とする。ニーズを基にタスクフォース(TF)を形成し、事務局が統括する。「TF1:医療現場」では**緩和ケア医や病理医、放射線治療医の育成**に加え、大学間連携の**免疫関連有害事象Board meeting**を通じて腫瘍循環器/腎臓病医等にも実践的な診療経験の場を提供する。「TF2:予防医療」では**遺伝カウンセラー育成**に加え、**がんサバイバーシップ支援ができる専門看護師育成**、近大情報学部との連携によるバイオインフォマティクスの育成や、大阪公立大学保有の1万例の健診データを利用した**先制医療を担う人材養成**を行う。「TF3:研究開発」では臨床研究中核病院である神戸大学を中心に、**個別化医療**に繋がる研究開発の基盤となる医師・CRC等に加え、**免疫療法等、高度ながん医療研究開発を主導する医療者**の育成システムを構築する。

### ②テーマごとの課題と対応策

#### テーマ①: がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成

##### 課題・対応策

課題: 痛みへのケアを行う緩和ケア医や認定看護師に加え核医学や粒子線に精通する放射線治療医や、分子病理の知識を有する病理診断医の絶対数の不足が課題である。加えて免疫療法など新たな治療手段による副作用等、循環器疾患、腎疾患、神経疾患などがん及びがん治療に伴う他疾患への対応が求められる。  
対応: 本テーマに関してはTF1(医療現場)として近畿大学を中心に現場で必要とされる人材養成を行う。  
**地域で活躍する病理診断医や放射線治療医が、分子病理診断**(神戸大学地域定着型病理診断医育成コース、近畿大学分子腫瘍病理学コース)や**核医学**(近畿大学放射線腫瘍学先端研究者養成コース)、**粒子線治療**(神戸大学地域定着型放射線治療医育成コース、医学物理スペシャリスト養成コース)も含む高度な技術を必要とする放射線治療技術に対する知識、技能を効率よく身につけるためにも、社会人入学により地域の施設でのがん診療を継続しながらも指導が受けられるような病理診断医、放射線治療医養成課程を開講する。また**腫瘍内科学研修**において診断から看取りまでの実際のがん患者に対する包括的な診療を経験することで、各専門医がPatient Journeyの中での自らの役割を考える機会を提供する。神戸大学の多職種・他分野・地域をつなぐ緩和医療専門医育成コースでは、医療用麻薬などの薬物療法のみならず、痛みをはじめとした症状緩和治療に必要な**放射線治療・神経ブロック・IVRの有用性**の理解と適応判断ができ、周辺リソースと連携した地域における症状緩和治療提供体制の構築ができるような教育を行う。関西医科大学の特定集団特化型緩和医療コースでは、肉体的な痛みに加えて心の痛みにも着目し、**心療内科医や臨床心理士との医心連携**による緩和ケアに取り組む。インテンシブコースとして神戸大学では腫瘍循環器学を学ぶ機会を**実地診療に従事する循環器科医や腫瘍治療医**に提供する他に、TF3に詳述する大学、施設連携の免疫関連有害事象Board meetingに**腫瘍循環器医や腎臓病医、神経内科医などの医師**が参画することで多施設による症例経験の集積を行い、がん学際領域における臨床および研究の活性化を目指す。

##### テーマに関する強み

核医学は近畿大学放射線診療部にて、粒子線は神戸大学の粒子線治療施設(兵庫県立粒子線医療センターや神戸陽子線センター)などの連携施設にて既に診療や研究の経験があるため実地的な教育が可能である。加えて**医学物理士に関してはがんプロ3期の間に18名の修了者を地域の拠点病院に輩出**するなど既に教育体制を確立している。また、近畿大学病院、神戸大学医学部附属病院共にがんゲノム医療拠点病院として病理医がエキスパートパネルに関わるなど分子病理医の育成の下地は整っている。本事業には大学教育における中心を既に成しているがん診療の縦糸となる臓器専門的診療科のみならず、がんの特化した臓器横断的(横糸)な診療科として腫瘍内科を標榜し実際に臓器横断的に臨床や研究を行う講座を有する複数の大学が参加していることが人材養成における大きな強みである。放射線治療医や病理医などがん診療の基盤となる診療科と、最前線にて診療を行う内科、外科そして緩和ケア科、麻酔科などがん疼痛対応に特化した専門科の人材ががんプロの中で縦糸と横糸として絡み合うことで強固ながん診療の基盤を地域に提供する。実際に**免疫療法に対する有害事象のマネジメント**には複数の診療科や多職種が関わる必要があり、**臓器横断的診療科**が基盤となりマネジメントを行うことが強みとなる。

## テーマ②：がん予防の推進を行う人材養成

### 課題・対応策

課題：蓄積された**ビッグデータ**の有効活用を基盤とした**がん予防医療**の発展が課題であり、遺伝子解析や医用画像を含む臨床データの分析が可能な人材の育成および連携が必要である。また、**疾患高リスク未発症者**の適切な受け皿や、**がんサバイバー**を地域のチーム医療で支えることを可能とする人材養成が必要である。

対応策：本事業ではTF2（予防医療）として、大阪公立大学をリーダー校として課題に取り組む。

**大阪公立大学の先端予防医療学教室**および**MedCity21内の先端医療部附属クリニック**ではがんや**がん発症リスクとなる生活習慣病**（心臓病、糖尿病、慢性腎臓疾患、脂肪肝等）の**早期発見・早期治療の実践や未病段階での早期介入**を目的に健診事業をしている。第4期がんプロ事業におけるTF2では健診事業から得られる**健常・未病・有病状態の連続的かつ網羅的なビッグデータ**（臨床情報、血液検体等）を集積した**バイオバンク**を構築し、大阪公立大学内の**医療ビッグデータ**専門医養成コースと共同して、効率化・個別化されたがん予防医療の実践を行う人材育成を行う。また、近畿大学理工学部・情報学部においても**バイオインフォマティクス**等のデータ解析専門家育成コースを令和7年以降に開設する。学生に対する教育カリキュラムにがんに関する講義・研修を盛り込み、「がんに強いデータ分析のスペシャリスト」を持続的に養成することを可能にする。大阪公立大学大学院看護学研究科では、病院および地域のチーム医療における「看護師の調整力」を高めるカリキュラムを策定し、**アサーション等のコミュニケーションスキル**を取り入れ、**がんサバイバーの生活における課題**を解決できる相談支援機能に長けた専門看護師を育成する。また神戸大学大学院保健学研究科では、がん看護に携わる看護師として、医療機関と地域の連携、チーム医療に重点をおき、治療後のフォローアップを受ける**成人・小児がんサバイバーへの高度看護支援やその看護の開発研究ができる人材**を育成する。近畿大学病院は日本病態栄養学会の実地修練施設に認定されており、がんプロ卒業生とともに「**がん病態栄養専門管理栄養士**」の育成を進める予定である。さらには、ピアサポーターの養成を行い、医療者だけではなく、多角的ながんサバイバーへのケアが可能になると期待される。神戸大学においては、がんリハビリテーションの臨床と研究を積極的に行っており、それを基盤に**がんリハビリテーションに特化したリハビリテーションセラピスト**を対象とする大学院コースを開講する。

### テーマに関する強み

TF2のリーダー校である大阪公立大学の先端予防学教室では既に、**先制的予防医療の実践、未病データの蓄積と解析**による新たな研究成果の創出と国際競争を勝ち抜く研究者の人材育成を行っている。加えて**MedCity21に2次利用可能な1万6千件を超える健診データ**を有しており、がんプロ内事業内の連携において他大学のデータ解析専門部門と共同した先制医療の研究を行うことが可能である。また、近畿大学では理工学部において過去のがんプロプランより**遺伝カウンセラーを多数育成**した実績を有しており（第3期にて**60名の遺伝カウンセラー**が大学院を修了）、関西地区一円の拠点病院のがんゲノム医療に貢献している。神戸大学医学部附属病院でも**がんリハビリテーションインテンシブコースを開講し多くの理学療法士を受け入れてきた実績**がある。さらに大阪公立大学大学院看護学研究科では、がんサバイバーの就労支援やAYA世代・高齢者など**様々なライフステージにあるサバイバー**に対する看護研究を行っており、意思決定支援および緩和ケアを実践できる**がん看護専門看護師61名**を養成してきた実績を持つ。また神戸大学大学院保健学研究科では小児がん・AYA・成人がんのサバイバーの看護支援に関する研究してきた実績があり、その特色として看護学、病態解析学、リハビリテーション科学、パブリックヘルス領域の教員が連携し、多職種連携・チーム医療を重視したプログラムを展開している。

### テーマ③：新たな治療法を開発できる人材の養成

#### 課題・対応策

課題：がんゲノムプロファイリング検査を受けた患者が実際に治療に結び付く例は未だ少ない。また免疫チェックポイント阻害薬やCAR-Tなどの免疫療法が臨床試験において有効性を示しているが、実地臨床で使用するための新しいタイプの副作用に対応出来る専門の医師や薬剤師が不足している。

対応：本テーマに対してTF3（研究開発）として、**臨床研究中核病院**である神戸大学医学部医学部附属病院を有する神戸大学を中心に本事業で対応する。具体的には、希少がんや稀な遺伝子異常を有するがんを中心としたアンメットメディカルニーズに対応する**医師主導治験や特定臨床研究**を実施し、特にがんゲノムプロファイリングの結果で何かしらの遺伝子異常を認めたがん患者へ治療薬を提供する道筋を作ることを目標とする。またそのためには研究の基盤整備も重要であり、神戸大学では個別化医療開発に重点を置いた大学院プログラムを腫瘍・血液内科、小児科大学院コースにて提供する。また具体的な薬剤の創出に関して、関西医科大学では**創薬研究コース**を開講し、核酸医薬創出や疾患特異的バイオマーカーの探索などを行える人材を大学内の各講座が連携して導出する講座を開講する。

医学部内に設置する薬剤師に対する大学院コース（近畿大学）や医療者全般に対する通年のインテンシブコース（神戸大学）を開設し、**がん薬物療法の臨床研究・開発**の主導者としてのon the job trainingと、臨床研究基盤の中核的人材を目指した臨床研究による学位の取得を可能とする。卒業生には臨床研究の基盤となる、がん薬物療法に関する臨床試験や研究を支援できる人材となることが期待される。特に**免疫チェックポイント阻害薬やCAR-T等の免疫療法に対する免疫関連有害事象（irAE）**の中には頻度が稀で臨床場面で経験し学ぶことや、研究対象とすることが困難なものがある。本事業による**大学間・地域施設間連携によるirAEに対するBoard meeting**を定期的かつ持続的に開催する。この先進的な取り組みは近畿大学で5年以上（合計50回以上）にわたって取り組んできたが、それを複数の施設に拡大することで、①地域におけるirAE対応の均てん化②症例集積による経験蓄積③ゲノム研究や免疫学研究における大学の研究者も参画する。またこの仕組みから複数施設における免疫関連有害事象発症例の臨床情報と検体を集約し、免疫有害事象データバンキングとして**免疫療法有害事象に対する研究の活性化**を目指す。

#### テーマに関する強み

各連携大学では、新規治療法の開発を目指した臨床試験を精力的に実施し、**多施設共同の医師主導治験**を主導してきた。近畿大学医学部腫瘍内科では神戸大学を含む多施設にて、原発不明がんに対する免疫チェックポイント阻害薬の医師主導治験（NivoCUP試験）を実施し、世界初となる原発不明がんに対するニボルマブの**適応承認取得**に貢献した実績を有する。更に、**患者会との連携**により実際に治療を受ける患者のニーズに沿ったわが国初の患者提案型医師主導治験であるT790M陰性EGFR陽性非小細胞肺癌に対する分子標的治療薬オシメルチニブの有効性を検討するKISEKI試験を完遂した。「**臨床研究中核病院**」の指定を受けている神戸大学医学部附属病院では、臨床研究推進センターが中心となって、日本発の革新的な医薬品や医療機器の開発・展開に供する臨床研究や治験のみならず、研究者がクリニカルクエストや研究アイデアを最も効率的かつ有効な形で新しいエビデンスや製品に結実できるように支援する体制を構築している。更に、全連携大学が、わが国有数の多施設共同臨床試験グループである「西日本がん研究機構WJOG」に加盟し、若手医師を中心として、多くの臨床試験に参画することによって、新規治療法の開発に携わっていることも本拠点の大きな強みである。また、がんゲノム医療中核病院として、西日本最多の症例数を有する小児がん拠点病院である兵庫こども病院と連携してがんゲノム医療を実施しており、小児がんに対する個別化医療の臨床開発の人材養成も可能である。一方、近畿大学病院では、輸血・細胞治療センター、再生医療部（CPC）等が連携して、**CAR-T療法**を円滑かつ効率的に実施しており、人材養成基盤を構築している。

## (2) 達成目標・評価指標

<b>アウトプット</b>
<b>【教育プログラム・コース】</b>
・博士課程大学院コースは、令和5年10月?及び令和6年4月に、インテンシブコースは、令和5年10月、令和6年2月、4月及び6月に開講する。博士課程大学院コース27コース（医学研究科23、看護学研究科2、薬学研究科1、理工学研究科1）及びインテンシブコース18コースを実施する。
・博士課程大学院コースの受入目標人数は総数247名で、その内訳は、医学研究科・医師対象168名（令和6年度：33名、7年度：33名、8年度：35名、9年度：32名、10年度：35名）、医学研究科・医学物理士対象16名（令和5年度：1名、令和6～10年度：各3名）、医学研究科・薬剤師対象10名（令和6～10年度：各2名）、看護学研究科・看護師対象15名（令和6～10年度：各3名）、理工学研究科・大学院生18名（令和5～10年度：各3名）である。インテンシブコースの受入目標人数は総数227名で、その内訳は、医学研究科・医師対象42名（令和5年度：2名、令和6～10年度：各8名）、医学研究科・薬剤師対象25名（令和6～10年度：各5名）、医学研究科：リハビリ専門職対象40名（令和6～10年度：各8名）、医学研究科：多職種対象76名（令和5年度：6名、令和6～10年度：各14名）、理工学研究科：多職種対象24名（令和5～10年度：各4名）、看護学研究科・看護師対象20名（令和6～10年度：各4名）である。
・がん予防医療、がんサバイバーのケア、個別化医療、学際領域に必要なプログラムを充実・強化した、腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）・腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）の開講（31コマ/年、令和6～10年度：大学院生及びインテンシブコース生の一部対象、全大学）
・「模擬患者による多職種参加型個別化医療課題演習（SPを用いた職種横断的臨床課題演習：以下、SP演習）」「多職種参加型症例検討演習（職種横断的ケーススタディ演習：以下、CS演習）」の実施（各1回/年、令和6～10年度：大学院生及びインテンシブコース生の一部対象、該当大学）
<b>【セミナー・講演会・シンポジウム・協議会等】</b>
・市民講座ハルカス大学（検診について）（5回/年/令和5～10年度：20名/回/大阪公立大学医学部）
・がん予防・医療ビッグデータ・リアルワールドデータに関する（国際）シンポ（1回/年/令和5～10年度：50名/全大学）
・医療ビッグデータを用いたプログラミングワークショップ（1回/年/令和5～10年度：40名/全大学）
・がんと共生を支える多職種連携シンポジウム（1回/年/令和5～10年度/大阪公立大学看護学部）
・小児がんサバイバー移行期支援推進セミナー（2回/年/令和5～10年度：30名/神戸大学）
・関西がんのリハビリテーション研究会（2回/年/令和5～10年度：50名/神戸大学）
・ELNEC-Jコアカリキュラム 看護師教育プログラム（1回/年/令和5～10年度：50名/兵庫医科大学）
・「がんゲノム医療スキルアップセミナー」開催（1回/年/3部構成/令和5～10年度:50名/近畿大学）
・希少がん及び小児・AYA世代・壮年期の各世代のがん患者会（がんサバイバーを含む）、NPO法人との相互連携・情報発信を目的としたセミナー開催（1～2回/年/令和5～10年度:30名～100名/各大学）
・「大阪地区がん診療連携推進協議会」開催（1回/年/令和5～10年度:各50名/全大学）
・「次世代のがんプロフェッショナル養成セミナー」開催（1回/年/令和5～10年度:各80名/全大学）
・「irAEネットワークセミナー」開催（2回/年/令和5-10年度:各100名/全大学）
<b>【連携大学間及び産学官共同研究】</b>
・免疫関連有害事象（irAE）に対応するための学際領域を含む多診療科および多職種が参加する「多職種参加型免疫療法キャンサーボード（imNET）」実施（1回/月/令和5～10年度:各50名/全大学）
・がんプロ人材のアウトプットの場合、がんプロ研究シンポジウム（2回/年/令和5～10年度:50名/全大学）
<b>アウトカム</b>
がん薬物療法専門医27名、血液専門医12名、放射線治療専門医16名、緩和医療専門医25名、小児血液がん専門医5名、（臓器別）外科系専門医20名、病理専門医8名、医学物理士15名、リハビリテーション研修修了者8名、専門看護師8名、臨床遺伝専門医5名、認定遺伝カウンセラー10名、専門薬剤師20名の養成が可能となる。関西県内に広がる5大学から構成されるプログラムの強みを活かし、それぞれの地域において、拠点病院におけるがんプロフェッショナル人材の不足解消が可能となる見込みである。また、地域の病院においても高い診療スキルとがんプロで学んだ系統的な知識を生かして後進の教育に携わり、卒業生同士の横の繋がりも活かしながら「持続可能な人材育成」が可能となることが期待される。

### (3) 事業の運営体制

#### ①学内の運営体制

各連携大学の学長もしくは学部長を構成メンバーとするプロジェクト統括会議を最高意思決定会議体として設置、その下部組織として、各連携大学のプロジェクト運営推進委員によって構成されるプロジェクト運営推進委員会を定期的に開催し、3つのタスクフォース（1. 医療現場、2. 予防医療、3. 研究開発）の活動状況を確認するとともに、必要に応じてアクションプランの見直しを図る。各タスクフォースのリーダー校はその事業について責任を有し運営推進委員会において活動状況の報告や意見の取り纏めを行う。運営推進委員は各大学、学部にて、教育カリキュラムの開発や編成、実習のコーディネーター、大学院生やインテンシブコース生の指導の進捗管理を行う。運営推進委員会ではそれぞれの大学でTFに従った取り組みを行っているため、その強み、弱みを確認し相互の教育システムの補完や情報交換を行う。

事業開始に向けての準備体制として、数回のプロジェクト運営推進委員会を数か月にわたり既に施行した。必要とされるがんプロ医療人材について運営推進委員にて各大学内で検討され、病理学や予防医療、医療情報専門家の育成など複数のプロジェクトでは令和5年上半期より具体的な取り組みの構築を行ってきた。

#### ②学外との連携体制

各連携大学は、全てのタスクフォースに参画する。これによって、様々な取組から得られるメリットが、全連携大学及び本プラン全体に波及することが期待される。

本プランにおける大学間連携を前提とした取り組みである**免疫療法Cancer Board**では、各大学の運営推進委員により大学ごとにごん学際領域を含む診療科の取りまとめを行い、近畿大学がんプロ事務局が各大学から提供された情報を元に定期的なカンファレンスの開催を支援する。また本プログラムでは実際の患者情報を取り扱う可能性があるため、守秘義務契約の締結などを行った上で**参加大学のみならず地域の医療機関も参加し、症例提示および検討を行うことを可能とする。**

病理診断医や放射線治療医、医学物理士、がん専門薬剤師、遺伝カウンセラーコースでは地域の医療者の参加により**拠点病院のがん診療の底上げ**を目指している。

#### ③評価体制

外部評価としては、審査機関として、外部評価委員による活動成果評価委員会を設置し、本プラン全体の進捗状況と各取組の成果を毎年審査する。審査結果及び指摘を受けた改善点等を、プロジェクト統括会議、プロジェクト運営推進委員会及び各連携大学にフィードバックすることによって、事業の軌道修正を行う。

自己評価としてはタスクフォース毎に自己評価チェックシートを用いてタスクフォース責任者が責任をもって進捗状況や成果、人材の輩出の具体的な数の評価しプロジェクト運営推進委員会に年に1回報告する、プロジェクト運営推進委員会においてタスクフォース同士の相互評価を行い問題点をフィードバックする。

### (4) 成果の普及や事業の継続

#### ①成果の普及

「次世代医療人養成がんプロセミナー」を各大学で実施し、プランによって創出されたノウハウを、がんプロから排出されたがん専門医療人自らが地域社会へ発信、普及に努めていく。学術的研究成果に関しては、「がんプロ研究シンポジウム」を年に2回開催し発表するとともにがん関連学会での発表及び学術誌への論文発表を行う。行政とも連携して、一般向けにwebで広く参加が可能とした会を企画し、がんプロ人材による最新のがん検診、がん診療に関わる情報を提供する。

#### ②事業の継続

補助金事業終了後の事業継続に関しては、各連携大学における自助努力によって運営財源を確保し第4期事業で確立された講座の継続に取り組む。さらに、これまで、「7大学連携個別化がん医療実践者養成プラン」に対する支援事業を展開してきた特定非営利活動法人「近畿がん診療推進ネットワーク」からの継続的な支援を受けて、がん専門医療人養成においてシンポジウムやセミナー等からニーズの高い取組を継続する。

### ③第3期がんプロの継続状況

※代表校（申請大学）における第3期がんプロで開設した大学院正規課程コースを全て記載し、令和4年度の学生募集の有無を○×で選択してください（第3期がんプロで選定されていない大学は記入不要）。

番号	教育プログラム・コース名	令和4年度の 学生募集の有無
1	分子腫瘍内科学コース	○
2	新ニーズ対応型造血器腫瘍・がん薬物療法専門医コース	○
3	放射線腫瘍学先端研究者養成コース	○
4	先端医学物理研究者養成コース	○
5	がん緩和医療専門医養成コース	○
6		
7		
8		
9		
10		

総表

1. 参加大学の状況

拠点病院の指定やがんの特化した講座設置等に該当する場合は○を、補助事業期間中に指定取得

大学名	がん診療連携拠点病院					地域がん診療病院	小児がん拠点病院	がんゲノム医療病院			がんの特化した講座				バイオバンク	大学ごとのR5補助金配分額(千円)
	都道府県	地域(高度型)	地域	地域(特例型)	特定領域			中核拠点	拠点	連携	薬物療法	放射線治療	緩和医療	その他		
近畿大学		○							○	○	○	○	○	○	28,300	
大阪公立大学			○						○	○	○			○	18,700	
神戸大学			○						○	○	○				14,950	
関西医科大学		○							○	○	○			○	7,400	
兵庫医科大学			○						○	○	○		○		7,850	

がんの特化した講座の名称	<p>【近畿大学】内科学(腫瘍内科部門、血液・膠原病内科部門)、放射線医学(放射線腫瘍学部門)、医学物理学、緩和医療学、ゲノム生物学、外科学(上部消化管・下部消化管、肝胆膵、呼吸器外科部門)【大阪公立大学医学部】臨床腫瘍学講座(2012年設置)、病態診断・生体機能管理医学講座放射線腫瘍学【大阪公立大学看護学部】看護学研究科実践看護科学領域【神戸大学】内科学講座腫瘍・血液内科学分野、内科系講座放射線腫瘍学分野放射線腫瘍学部門、内科系講座先端緩和医療学分野【関西医科大学】呼吸器腫瘍内科学、放射線科学【兵庫医科大学】臨床腫瘍薬制御学、放射線腫瘍学、医学物理学、胸部腫瘍学(特定講座)、細胞遺伝子治療学</p>
バイオバンクの保存試料数(がん関係)	<p>【近畿大学】約2,000人分 【大阪公立大学】約16,000人分 【関西医科大学】約170人分</p>

2. 教育プログラム・コース一覧

(1) 大学院正規課程コース

大学名	テーマ	教育プログラム・コース名	養成目標人数合計	養成する職種に○、がん専門資格と連動している場合◎を選択						
				医師	歯科医師	薬剤師	看護師	その他の医療職	医療職以外	
近畿大学	テーマ③	個別化医療を推進する腫瘍内科学コース	6	◎						
近畿大学	テーマ③	次世代対応型造血器腫瘍・がん薬物療法専門医養成コース	5	◎						
近畿大学	テーマ③	放射線腫瘍学先端研究者養成コース	5	◎						
近畿大学	テーマ③	高度先端医学物理研究者養成コース	10					◎		
近畿大学	テーマ①	がん緩和医療専門医養成コース(正規課程)	5	◎						



近畿大学	テーマ①	多様化する上部消化管がん集学的治療に対応できる外科医養成コース	5	◎						
近畿大学	テーマ①	下部消化管腫瘍外科専門医養成コース	5	◎						
近畿大学	テーマ①	肝胆膵外科専門医養成コース	5	◎						
近畿大学	テーマ①	呼吸器腫瘍外科専門医養成コース	5	◎						
近畿大学	テーマ①	分子腫瘍病理学コース	5	◎						
近畿大学	テーマ③	がん専門薬剤師コース（正規課程）	10			◎				
近畿大学	テーマ②	遺伝カウンセラー養成課程コース	10						◎	
大阪公立大学	テーマ①	サステナブルながん医療を实践できるがん薬物療法専門医・研究者養成コース	5	◎						
大阪公立大学	テーマ①	造血器腫瘍プレシジョン・メディスン（個別化医療）専門医養成コース	5	◎						
大阪公立大学	テーマ①	遺伝性腫瘍および癌ゲノム医療に対応する次世代型外科専門医・研究者養成コース	5	◎						
大阪公立大学	テーマ①	サステナブルな次世代型高精度放射線治療専門医・研究者養成コース（正規課程）	3	◎						
大阪公立大学	テーマ①	小児・AYA世代の希少がんや遺伝性腫瘍の治療と晩期合併症に対応できる人材の養成コース	1	◎						
大阪公立大学	テーマ②	サステナブルながん予防のシステム構築と実践ができる健診専門医養成コース	5	◎						
大阪公立大学	テーマ②	医療ビッグデータ専門医養成コース	5	○						
大阪公立大学	テーマ③	同種造血幹細胞移植、免疫細胞療法指導医養成コース	5	◎						
大阪公立大学	テーマ②	がんとの共生を支えるがん看護専門看護師教育プログラム	10					◎		
神戸大学	テーマ③	がんプロフェッショナル養成プログラム（次世代がん個別化医療開発のための医師育成コース）	10	◎						
神戸大学	テーマ①	がんプロフェッショナル養成プログラム（地域定着型放射線治療医育成コース）	5	◎						
神戸大学	テーマ①	がんプロフェッショナル養成プログラム（地域定着型病理診断医育成コース）	3	◎						
神戸大学	テーマ①	がんプロフェッショナル養成プログラム（多職種・他分野・地域をつなぐ緩和医療専門医育成コース）	10	◎						
神戸大学	テーマ③	がんプロフェッショナル養成プログラム（次世代小児がん個別化治療医育成コース）	5	◎						

神戸大学	テーマ①	次世代のがん放射線治療医学物理士養成コース	5					◎	
神戸大学	テーマ②	次世代がんリハビリテーションのための人材育成コース	8					◎	
神戸大学	テーマ②	がんプロフェッショナル養成プログラム（がん看護学）	5				◎		
関西医科大学	テーマ①	地域がん医療課題克服型腫瘍学コース	9	◎			○	○	
関西医科大学	テーマ①	高精度個別化放射線腫瘍学コース	3	◎					
関西医科大学	テーマ②	特定集団特化型がん緩和医療コース	5	◎			○	○	
関西医科大学	テーマ③	新規治療法開発を目指す人材育成のための創薬研究コース	5	○				○	
兵庫医科大学	テーマ①	がん患者における痛みの治療とケアのできる人材育成コース	5	◎		◎	◎		
兵庫医科大学	テーマ③	がんに対するインターベンショナル・ラジオロジー（IVR）・放射線治療トランスレーショナルリサーチ研究者養成コース	10	◎				○	○
兵庫医科大学	テーマ③	がん免疫療法・ゲノム医療の実践・応用・新規開発のできるプロフェッショナルな多職種医療人および研究者養成コース	10	◎		○	○		
合計			218						

(2) インテンシブコース ※コースワークで複数の科目等を履修するものとし、1日～数日間の講習会は除く。

大学名	テーマ	教育プログラム・コース名	養成目標人数合計	医師	歯科医師	薬剤師	看護師	その他の医療職	医療職以外
近畿大学	テーマ①	腫瘍内科専門医/がん薬物療法専門医インテンシブコース	5	◎					
近畿大学	テーマ②	ゲノム医療に強い多職種がん専門医療人養成コース（インテンシブコース）	5	○	○	○	○	○	○
近畿大学	テーマ③	新たな治療法開発を支援する臨床研究コーディネーター養成コース（インテンシブコース）	5			○	○	○	○
近畿大学	テーマ②	がん予防医療の遺伝カウンセリングを学ぶ多職種医療人養成コース	20	◎	◎	◎	◎	◎	
大阪公立大学	テーマ②	がんとの共生を支える専門看護師強化プログラムA（インテンシブコースA） 持続的かつシームレスなケアの実現に向けた能力向上プログラム	10				○		
大阪公立大学	テーマ②	がんとの共生を支える専門看護師強化プログラムB（インテンシブコースB） 地域共生社会の実現に向けたがんサバイバー相談システム構築支援プログラム	10				○		

神戸大学	テーマ①	腫瘍循環器人材育成インテンシブコース	10	◎					
神戸大学	テーマ③	オンデマンドセミナーを活用した個別化腫瘍・血液治療インテンシブコース	17	◎					
神戸大学	テーマ②	がんゲノム医療インテンシブコース	10	◎					
神戸大学	テーマ③	がん薬物療法の臨床研究・開発を支援する人材育成インテンシブコース	25			◎		◎	
神戸大学	テーマ①	がん放射線療法インテンシブコース	5	◎				◎	
神戸大学	テーマ①	地域を志向する緩和ケア人材育成インテンシブコース	25	◎		◎	◎	◎	◎
神戸大学	テーマ②	がんリハビリテーションインテンシブコース	40					◎	
兵庫医科大学	テーマ①	多様な医療ニーズに対応できる人材を育成する放射線治療インテンシブコース	10	◎					
兵庫医科大学	テーマ①	痛みの治療・ケアに対応できる人材を育成する緩和ケアインテンシブコース	10	◎		◎	◎		
兵庫医科大学	テーマ①	多様な医療ニーズに対応できる人材を育成する薬物療法インテンシブコース	10	◎		○	○		

合計 217

## 2. 年度別の計画

### (1) 年度別の計画

R5年度	<p>①～③：それぞれテーマ①～③ ④：全般に関わる事案</p> <p>8月 ④プロジェクト統括会議、プロジェクト運営推進委員会開催</p> <p>9月 ④各大学博士課程大学院コース開講のための履修項目等準備</p> <p>10月 ④シンポジウムやセミナー等の準備</p> <p>①③神戸大学大学院医学研究科 「インテンシブコースのオンデマンドセミナーを活用した個別化腫瘍・血液治療インテンシブコース」及び「がんゲノム医療インテンシブコース」の新規受入・開講</p> <p>②大阪公立大学 構築済みの健診受信者バイオバンクの拡充と健診データベースの整理</p> <p>11月 ③「施設間連携多職種参加型免疫療法キャンサーボード(imNET)」開始</p> <p>②神戸大学大学院保健学研究科 博士前期・後期課程コース受入・開講</p> <p>1月 ④プロジェクト運営推進委員会開催 ③がんプロ研究シンポジウム(冬)</p> <p>3月 ④活動成果評価委員会開催</p> <p>②大阪公立大学看護学部 がんとの共生を支える多職種連携シンポジウム開催</p>
R6年度	<p>4月 ④博士課程大学院コースの計35コース(全大学)受入・開講、インテンシブコース計16コース(近畿大学、大阪公立大学、神戸大学、兵庫医科大学)受入・開講</p> <p>①「腫瘍学Ⅰ基盤講義(医療現場・学際領域)」②③「腫瘍学Ⅱ横断講義(予防・研究開発)」開講</p> <p>④プロジェクト統括会議、④プロジェクト運営推進委員会</p> <p>7月 ②模擬患者と連携した、チームによるがん患者の意思決定支援演習(SPを用いた意思決定支援研修：以下、SP演習)</p> <p>9月 ④プロジェクト運営推進委員会</p> <p>10月 ②地域でがん患者の治療やサバイバーケアを支える為の事例検討演習(多職種による事例検討演習；CS演習)</p> <p>3月 ④活動成果評価委員会開催</p>
R7年度	<p>4月 ④博士課程大学院コースの計36コース(全大学)受入・開講、インテンシブコース計16コース(近畿大学、大阪公立大学、神戸大学、兵庫医科大学)受入・開講。神戸大学大学院医学研究科 修士課程「次世代がんリハビリテーションのための人材育成コース」新規受入・開講。神戸大学大学院医学研究科 博士課程5コース、修士課程「次世代がんリハビリテーションのための人材育成コース」とインテンシブコース7コースの受入・開講</p> <p>※上記事業に加え、令和6年度の事業計画を継続で実施予定</p>
R8年度	<p>4月 ④博士課程大学院コースの計36コース(全大学)受入・開講、インテンシブコース計16コース(近畿大学、大阪公立大学、神戸大学、兵庫医科大学)受入・開講</p> <p>※上記事業に加え、令和6年度の事業計画を継続で実施予定</p>
R9年度	<p>4月 ④博士課程大学院コースの計36コース(全大学)受入・開講、インテンシブコース計16コース(近畿大学、大阪公立大学、神戸大学、兵庫医科大学)受入・開講</p> <p>※上記事業に加え、令和6年度の事業計画を継続で実施予定</p>
R10年度	<p>4月 ④博士課程大学院コースの計36コース(全大学)受入・開講、インテンシブコース計16コース(近畿大学、大阪公立大学、神戸大学、兵庫医科大学)受入・開講</p> <p>※上記事業に加え、令和6年度の事業計画を継続で実施予定</p>
R11年度 [補助期間 終了後]	<p>4月 ④補助事業終了後も継続が承認された博士課程大学院コース及びインテンシブコース開講</p> <p>※上記事業に加え、令和6年度の事業計画を継続で実施予定</p>

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	近畿大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	個別化医療を推進する腫瘍内科学コース						
対象職種・分野	医学研究科医学系専攻大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	免疫チェックポイント阻害薬や分子標的治療薬を含むがん薬物療法に精通し、さらにシームレスな緩和ケアも行える人材やトランスレーショナルリサーチ、臨床研究や基礎研究に精通した人材など、希望に応じた多様な腫瘍内科医を育成する。						
修了要件・履修方法	必修科目24単位と臨床腫瘍学関連の選択科目6単位以上、合計30単位以上を修得し、血液腫瘍を含めた4臓器以上の癌化学療法の臨床実習を行い30例のがん薬物療法実施症例の要約を作成し、がん薬物療法専門医試験を受験する。希望に応じて緩和ケアチームに6か月在籍する事で、緩和ケア認定医取得も目指す。4年修了時にはがん研究関連（臨床研究、がんゲノムや腫瘍免疫も含む基礎研究、トランスレーショナルリサーチ）の博士論文の審査および最終試験に合格することを修了要件とする。						
履修科目等	<p>&lt;必修科目&gt;</p> <p>腫瘍学Ⅰ 基盤講義（医療現場・学際領域）（2単位）、腫瘍学Ⅱ 横断講義（予防・研究開発）（2単位）、腫瘍内科学実習Ⅰ（10単位）、模擬患者と連携した、チームによるがん患者の意思決定支援演習（SPを用いた意思決定支援研修：以下、SP演習）（1単位）、地域でがん患者の治療やサバイバーケアを支える為の事例検討演習（多職種による事例検討演習：以下、CS演習）（1単位）、血液腫瘍学実習（4単位）、放射線腫瘍学実習（4単位）</p> <p>&lt;選択科目&gt;</p> <p>分子腫瘍学（2単位）、がん薬物治療学（2単位）、臨床腫瘍学演習Ⅰ（4単位）、がん臨床研究計画演習（2単位）、がんゲノム研究演習（4単位）、腫瘍免疫基礎研究演習（4単位）、がんトランスレーショナルリサーチ演習（4単位）、腫瘍内科学実習Ⅱ（6単位）、がん緩和医療演習（2単位）</p>						
がんに関する専門資格との連携	がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）および緩和ケア専門医、認定医（日本緩和医療学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	腫瘍内科医に求められる様々な専門性（分子標的治療薬、免疫療法等）に対してゲノム生物学教室や免疫学教室と共同して対応可能である。						
指導体制	近畿大学医学部は大学病院の独立した腫瘍内科講座としてこれまで多くのがん薬物療法専門医を輩出した。過去のがんプロフェッショナル養成プランにて教育された、多様な専門領域を有する腫瘍内科医により、大学院生それぞれのニーズに合わせた教育が可能である。						
修了者の進路・キャリアパス	関西圏を中心にがん拠点病院で腫瘍内科医として地域のがん診療に携わる他、がんセンターや大学病院の腫瘍内科にて教育や研究に従事することで、後進の腫瘍内科医を育成する。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	2	1	1	1	1	6

受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠

南大阪地区（堺、南河内、泉州）の6つのがん拠点病院にがん薬物療法専門医を最低1人ずつ追加して充足することを目標とし、今後5年間で6人養成する。

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	近畿大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	次世代対応型造血管腫瘍・がん薬物療法専門医養成コース						
対象職種・分野	医学研究科医学系専攻大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	造血管腫瘍、がん薬物療法のエキスパートを目指すと同時に、オミクスデータや臨床情報などの医療ビッグデータを用いた個々人のがん予防やがん治療を決定し実践できる能力を身に付けている人材。また、新たな抗体薬や治療用細胞製剤を含む薬物療法の開発に向けた臨床試験やトランスレーショナルリサーチ並びに基礎研究を推進することができ、国際的な競争力を有する人材。さらに多職種連携・チーム医療による患者のQOL向上のためのがん医療や終末期医療が実践できる人材。						
修了要件・履修方法	必修科目24単位と血液腫瘍学関連の選択科目6単位以上、合計30単位以上を修得し、血液腫瘍を含めた4臓器以上のがん化学療法の臨床実習を行い、日本臨床腫瘍学会専門医試験の受験資格を取得する。4年修了時にはがん研究関連の博士論文の審査および最終試験に合格することを修了要件とする。						
履修科目等	<必修科目> 造血管腫瘍学実習Ⅰ(14単位)、臨床腫瘍学実習(4単位)、腫瘍学Ⅰ基盤講義(医療現場・学際領域)(2単位)、腫瘍学Ⅱ横断講義(予防・研究開発)(2単位)、がん緩和医療演習(2単位) <選択科目> 造血発生学(1単位)、分子病態学(2単位)、腫瘍免疫学(1単位)、造血管腫瘍学(2単位)、職種横断的ケーススタディ(1単位)、SPを用いた臨床課題演習(1単位)						
がんに関する専門資格との連携	血液専門医（日本血液学会）の研修施設として認定						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	造血管腫瘍を含むがんの基礎・臨床研究を有機的に融合したプログラムを用い、がん専門の研究者を養成する。またゲノム情報の解析結果に基づいて個々人のがん予防やがん治療方針を決定できる能力を身に付け、多職種との連携による全人的がん治療を実践できる人材を養成する。						
指導体制	近畿大学大学院医学研究科の血液内科学部門にはがん薬物療法専門医3名と、血液内科専門医が18名在籍しており、豊富な症例が経験でき、基礎・臨床研究の指導ができる体制が整っている。また、ゲノム生物学教室、ゲノム医療センターでは、オミクスデータを用いたがん医療を、緩和ケアセンターでは、集学的な痛みの治療・ケアが経験できる。さらに、循環器内科、腎臓内科などと連携を図ることでがん関連学際領域への対応に必要な知識、技術を習得できる。						
修了者の進路・キャリアパス	医学博士号を取得後は、日本血液学会や日本臨床腫瘍学会が主導する専門医機構の専門医を取得する。 大学の血液内科部門で血液専門医として指導者となるか特定機能病院に就職し血液・腫瘍内科専門医として勤務する。海外留学し、さらに研究者としての実績を積む選択もある。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1	1	1	1	1	5
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	2022年度血液内科専門医は約4,589名、人口10万人あたり3.22人であり、十分とは言えない。将来血液内科専門医の需要は高く、過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度1人の志願者が見込まれるため、当プログラムでは今後5年間で5人養成することとした。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	近畿大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	放射線腫瘍学先端研究者養成コース						
対象職種・分野	医学研究科医学系専攻大学院生、病院勤務医師等						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	放射線治療の生物学的・物理的研究を推進し、高い技能と集学的な視野を持って地域医療に貢献するがん研究医療人を育成する。一般的に行われる体外照射や小線源治療のみならず、核医学治療を含めた放射線治療全般について幅広い知識や経験を培い、放射線技師、医学物理士などの多職種を牽引できる放射線腫瘍医を育成する。社会に広く還元される研究成果の創出を基盤とし、豊かな人間性に基づく倫理観と高度な専門的知識を有し、将来、我が国のがん研究・教育・診療におけるリーダーとなり得る人材を養成する。						
修了要件・履修方法	必修科目24単位以上、選択科目を6単位以上、合計30単位以上を履修し、英語原著論文を書くこと。4年修了時には博士論文の審査および最終試験に合格することを修了要件とする。						
履修科目等	<必修科目> 腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）(2単位)、放射線腫瘍学総論(2単位)、核医学治療総論(2単位)、放射線生物学(2単位)、放射線治療計画法演習(2単位)、放射線腫瘍学実習(4単位)、腫瘍内科学実習(4単位)、放射線診断学実習(4単位)、腫瘍画像診断学実習(2単位) <選択科目> 高精度放射線治療学(2単位)、放射線医学物理学(2単位)、核医学治療実習(4単位)、腫瘍学Ⅱ横断講義(予防・研究開発)臨床腫瘍学各論(2単位)、連携病院放射線腫瘍学実習(4単位)						
がんに関する専門資格との連携	日本放射線腫瘍学会認定施設、放射線科専門医総合修練機関認定施設、日本核医学会専門医教育病院として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	放射線治療と核医学治療両方の指導体制が充実しており、放射線腫瘍学全般の知識と技能を習得するだけでなく、核医学治療に関する研修を行うことができる。腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）、腫瘍学Ⅱ横断講義(予防・研究開発)や腫瘍内科学実習を通じて、臨床腫瘍学の幅広い領域を学習する。多職種連携による包括的な緩和ケアにおける放射線治療の役割、南大阪地域を中心とした地域医療の中の放射線治療の役割について理解を深める。						
指導体制	放射線治療専門医5名が中心となって放射線腫瘍学全般の教育を行う。日本核医学会核医学専門医1名による核医学治療の教育を行う。医学物理士4名（常勤2名、非常勤2名）による医学物理学に関する教育を行う。放射線診断医、腫瘍内科医、その他関連する医師および多職種による講義・実習を行う。						
修了者の進路・キャリアパス	放射線治療専門医と医学博士を取得する。卒業後、助教として大学に勤務するか、関連施設で放射線治療医として勤務する。希望者は核医学治療研修を継続し核医学専門医を取得する。希望者には国内外への留学を許可する。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1	1	1	1	1	5
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	近畿大学病院と4つの連携施設に放射線治療専門医を最低2人ずつ配置することを目標とする。過去の大学院志願者数および日本専門医機構認定放射線科領域専門研修プログラムの応募者の実績から毎年度1～2人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を5人と設定した。						



## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	近畿大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	高度先端医学物理研究者養成コース						
対象職種・分野	医学研究科医学系専攻大学院生、医学物理士、診療放射線技師、臨床工学技士						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	放射線治療・核医学治療および放射線診断におけるがん治療に精通した人材はもちろんのこと、医学物理学研究において、新規性、進歩性に富む企画立案・遂行・評価ができる。また、医工・産学連携から生まれた研究成果を社会実装につなげる、知的財産マネジメントができる人材を養成する。						
修了要件・履修方法	必修科目24単位以上、選択科目6単位以上、合計30単位以上を履修し、英語論文を発表すること。						
履修科目等	<必修科目> 腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）（2単位）、医療・画像情報学（2単位）、放射線医学物理（2単位）、放射線安全・放射線防護（2単位）、放射線医学総論（2単位）、高精度放射線治療学（2単位）、放射線腫瘍学総論（2単位）、解剖学・生理学概論（2単位）、放射線治療計画法演習（2単位）、放射線医学物理実習（6単位） <選択科目> 腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）、放射線生物学（2単位）、放射線腫瘍学実習（2単位）、腫瘍画像診断学実習（2単位）						
がんに関する専門資格との連携	認定医学物理教育コース（博士課程）、日本放射線腫瘍学会認定施設、放射線科専門医総合修練機関認定施設						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	医療のニーズシーズに応える医工・産学連携研究を推進し、論文執筆、国際学会での発表、知財の申請から上市までのノウハウを学ぶ。高度医療へ物理的側面から貢献できる人材を広域から募集し、地域の均てん化も目指す。						
指導体制	医学物理士4名（常勤2名、非常勤2名）、放射線腫瘍医5名が中心となって教育を担う。その他、腫瘍内科医1名、放射線診断医1名、解剖学医1名、生理学医1名が講義・実習を行う。						
修了者の進路・キャリアパス	医学博士を取得後、がん治療の専門性を保ちつつ、医学物理領域で臨床に即した柔軟な応用力を発揮し、地域そして国際的な本領域のオピニオンリーダーや機器開発責任者を担うことができる。病院もしくは国内外のメーカーでの勤務。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		2	2	2	2	2	10
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	過去の本コース大学院満期修了者18名（2013年から2023年現在まで）、在校生5名（2023年現在）の数と広域からの志願者を見込めるため、受け入れ可能人数を各年2名と設定した。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	近畿大学大学院医学系研究科						
教育プログラム・コース名	がん緩和医療専門医養成コース（正規課程）						
対象職種・分野	医学研究科医学系専攻大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	治療医による緩和ケアが普及する中、それらで対処が困難なサバイバーの疼痛や難治性疼痛に対応するための幅広い技術に習熟し、また、将来、大学内および地域の中核的施設で、地域連携や多職種連携チーム医療の中心的人物となり、関係者への教育・啓蒙を担っていけるような人材を養成する。						
修了要件・履修方法	原則として4年間のうち前半2年間で必修科目24単位以上と選択科目6単位以上、合計30単位以上を取得する。後半の2年間は大学担当教員の指導のもとに専門領域の研究に従事し、論文を作成して、最終試験に合格すること。						
履修科目等	<p>&lt;必修科目&gt;腫瘍学Ⅰ 基盤講義（医療現場・学際領域）・腫瘍学Ⅱ 横断講義（予防・研究開発）（各2単位）、がん緩和医療演習Ⅰ・Ⅱ（各1単位）、職種横断的ケーススタディ演習（1単位）、SPを用いた職種横断的臨床課題演習（1単位）、緩和医療学実習Ⅰ（6単位）、腫瘍内科学実習（8単位）、がん緩和臨床研究計画演習（2単位）、がん医療地域連携演習（1単位）</p> <p>&lt;選択科目&gt;分子腫瘍学（2単位）、がん薬物治療学（2単位）、サイコオンコロジー（2単位）、腫瘍内科学特論（2単位）、緩和医療学演習Ⅰ（身体）・Ⅱ（精神）（各4単位）、緩和医療学実習Ⅱ（6単位）、緩和医療学教育実習（6単位）、腫瘍内科学実習Ⅱ（6単位）、血液腫瘍学実習（4単位）、放射線腫瘍学実習（4単位）</p>						
がんに関する専門資格との連携	緩和ケア専門医（日本緩和医療学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	基本的な腫瘍学・緩和医療学の知識、技術の習得に加えて、非がんの難治性疼痛を診療する麻酔科医や心療内科医、公認心理師との協働をするなかで集学的な疼痛治療について学ぶ場を用意する。また、サバイバーから終末期までがん医療のフェーズを踏まえた、多職種連携チーム医療や地域連携を念頭においた教育を推進していく。						
指導体制	近畿大学医学部腫瘍内科、緩和ケアセンター、放射線腫瘍科、血液内科学の教授・准教授が教官として各専門分野の講義、演習、実習を行うとともに、各領域間の連携を取りながら、包括的な指導を行なう。また、上記の教育内容の達成のために、基礎教室（ゲノム教室）、小児科、麻酔科など関連領域からの教官の招聘あるいは学生の実習での出向や、地域連携のために外部機関との相互交流を図りながら指導していく。						
修了者の進路・キャリアパス	医学博士号と緩和医療専門医資格の両者を取得し、大学内および地域の中核的関連施設で、緩和医療の実践と研究および教育・啓蒙の中心的人物として活動していく。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		1	1	1	1	1	5
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	現在大阪府内の緩和医療専門医は23名であり、年0～2名が新たに取得している。そのため、コンスタントに1名以上の専門医を養成することを目指す。過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査からも毎年度1人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を1人と設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	近畿大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	多様化する上部消化管がん集学的治療に対応できる外科医養成コース						
対象職種・分野	医学研究科医学系専攻大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	手術、化学療法、分子標的薬、immunecheckpoint inhibitor、放射線療法と多岐にわたる治療選択肢の中から、患者の病態や臓器機能から初回治療を選択し、その効果にたがって次の治療を計画していく基準、根拠や考え方を学ぶとともに、局所治療としての外科切除の適応と時期を判断できる上部消化管外科専門医を養成する。						
修了要件・履修方法	必修科目の講義：24単位以上と選択科目：6単位以上、合計30単位以上を履修し、英語原著論文を書くこと。						
履修科目等	<p>&lt;必修科目&gt;腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）（2単位）、腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）（2単位）、外科解剖学講義（2単位）、外科侵襲学講義（2単位）、上部消化管腫瘍学講義（4単位）、画像診断学講義（1単位）、薬物療法学講義（2単位）、放射線腫瘍学（1単位）、低侵襲外科学講義（1単位）、医療統計学講義（2単位）、がん臨床研究計画演習（1単位）、キャンサーボード実習（2単位）、大学病院での上部消化管手術・周術期管理実習（2単位）</p> <p>&lt;選択科目&gt;がん緩和医療学（1単位）、がん医療地域連携演習（1単位）、集中治療学（1単位）、腫瘍内科学実習（2単位）、放射線腫瘍学実習（1単位）、緩和医療学実習（1単位）、職種横断的臨床課題演習（1単位）</p>						
がんに関する専門資格との連携	<p>専門医制度指定修練施設（認定施設）：消化器外科専門医（日本消化器外科学会）の修練施設として認定</p> <p>食道外科専門医認定施設：食道外科専門医（日本食道学会）の修練施設として認定</p> <p>気管食道科専門医研修施設：気管食道科専門医（日本気管食道科学会）の修練施設として認定</p>						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	外科治療の可否ががん治療の方向性を決定づけた時代から外科切除も治療選択肢の一つという集学的治療時代においては、外科手術以外の治療についてもその適応、利点・欠点については精通している必要がある。近年は診療科の縦割りではなく、横断的にキャンサー・ボードで複数の診療科間で治療方針を議論して決定するのが主流であるが、互いの治療について一定レベルの知識がなければ深い議論には繋がらない。その意味で薬物療法や放射線治療に関する講義と共に腫瘍内科や放射線治療科での実習ならびに実際のキャンサー・ボードに参加しての実習体験はより実務的な専門医育成に大きく貢献すると考える。						
指導体制	消化器外科専門医が指導するが、食道外科専門医または気管食道科専門医がより専門的な食道がん治療について解説指導し、内視鏡外科技術認定医が低侵襲外科学を講義する。また、集中治療室の集中治療専門医、腫瘍内科のがん薬物療法専門医、放射線腫瘍学の放射線治療専門医、放射線診断学の放射線診断専門医と連携して講義・演習・実習を通じてより実践的な教育を行う。						
修了者の進路・キャリアパス	同じ病態に対して複数の治療選択肢が存在し、患者の高齢化や併存疾患、個々のもつ人生観や家族環境によって最適の治療を選択する幅広い知識と経験、判断力を有した専門医として大学病院またはがん拠点病院を中心とした地域の基幹病院において高度医療とともに患者に寄り添った柔軟な医療を提供するチームリーダーとして活躍することを期待する。特に食道外科専門医認定施設は南大阪においては近畿大学が唯一の施設であり、非認定施設に修了者を派遣することでその施設の施設認定取得をサポートし、食道がん治療の南大阪全体での質が向上することを期待する。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1	1	1	1	1	5

受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠

過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度1人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数5人と設定。

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	近畿大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	下部消化管腫瘍外科専門医養成コース						
対象職種・分野	医学研究科医学系専攻大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	高い臨床力と研究能力を併せ持つ外科医を養成する。先端の外科技術の修練や、下部消化管癌、特に大腸癌の病態解明と新規治療開発を目指す研究を行う。学位取得と消化器外科専門医・がん治療認定医の取得を目指し、リサーチマインドを兼ね備えた下部消化管癌に対するスペシャリストを養成する。						
修了要件・履修方法	必修科目24単位以上、選択科目6単位以上、合計30単位以上を履修し、英語原著論文を書くこと。						
履修科目等	<必修科目> 腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）（2単位）、腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）（2単位）、外科解剖学講義（2単位）、外科侵襲学講義（2単位）、下部消化管腫瘍学講義（2単位）、腫瘍外科学実習Ⅰ（4単位）、腫瘍外科学実習Ⅱ（4単位）、低侵襲外科学講義（2単位）、医療統計学講義（2単位）、キャンサーボード実習（2単位） <選択科目> 臨床腫瘍学特論（1単位）、臨床腫瘍学演習Ⅱ（2単位）、放射線腫瘍学演習（2単位）がん緩和医療演習（2単位）、SPを用いた職種横断的臨床課題演習（1単位）、職種横断的ケーススタディ演習（1単位）、臨床腫瘍学演習Ⅰ（2単位）						
がんに関する専門資格との連携	消化器外科専門医（日本消化器外科学会）の専門医制度指定修練施設（認定施設）として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	外科治療を行う上で、ゲノム医療も視野においた下部消化管癌の病態研究による基礎知識修得および臨床の修練を行う。						
指導体制	外科指導医、消化器外科指導医、日本内視鏡外科学会技術認定医による臨床手技指導。腫瘍内科学教室と協力することで下部消化管癌、主に大腸癌領域での分子腫瘍学の理解を深められるよう教育体制をとっている。						
修了者の進路・キャリアパス	外科専門医および消化器外科専門医の取得。臨床手技力およびリサーチマインドを兼ね備えた次世代医療に対応する外科医として、地域のがん拠点病院等の地域医療の基幹病院におけるがん治療および大学病院等でのがん治療や研究における活躍が期待される。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1	1	1	1	1	5
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度1人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数5人と設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	近畿大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	肝胆膵外科専門医養成コース						
対象職種・分野	医学研究科医学系専攻大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	肝胆膵領域悪性腫瘍に対する高難度外科治療を遂行可能な技量を有し、多領域にまたがる集学的治療に対応できる外科医を育成する。同時にこれらの人材は、治療戦略に関わる臨床試験やその理論的背景となる基礎医学に関する研究を実践できるAcademic Surgeonを目指す。						
修了要件・履修方法	必修科目24単位以上、選択科目6単位以上、合計30単位以上の履修。4年修了時にはがん研究関連の博士論文の審査および最終試験に合格することを修了要件とする。						
履修科目等	<p>&lt;必修科目&gt;</p> 腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）・腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）（各2単位）、外科解剖学講義（2単位）、外科侵襲学講義（2単位）、肝胆膵外科学講義（2単位）、画像診断学講義（2単位）、薬物療法学講義（2単位）、放射線腫瘍学（2単位）、低侵襲外科学講義（1単位）、医療統計学講義（1単位）、がん臨床研究計画演習（2単位）、キャンサーボード形式のケーススタディ演習（2単位）、大学病院での肝胆膵外科手術・周術期管理実習（2単位） <p>&lt;選択科目&gt;</p> がん緩和医療学（2単位）、がん医療地域連携演習（2単位）、集中治療学（2単位）、腫瘍内科学実習（4単位）、緩和医療学実習（2単位）、肝・膵移植医療実習（2単位 共同参加施設）						
がんに関する専門資格との連携	当院は消化器外科専門医（日本消化器外科学会）・膵臓認定指導医（日本膵臓学会）・肝臓専門医（日本肝臓学会）・胆道認定指導（日本胆道学会）・高度技能専門医（日本肝胆膵外科学会）の認定・修練施設となっている。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	地域中核施設として上述の人材育成に十分な臨床経験を積むことが可能で、他領域にわたる専門医からの豊富な教育機会を有する。プログラム共同参加施設での肝・膵領域における移植医療の研修も予定する。希望者には本学内のみでなく他施設での基礎研究の機会も提供する。						
指導体制	各専門医・指導医資格を有する医師および基礎医学での博士号取得者が教育を担う。その他、関連する他科教官による講義・実習も予定する。						
修了者の進路・キャリアパス	卒業にあたり医学博士の学位認定とともに消化器外科専門医・肝胆膵外科高度技能専門医・内視鏡外科技術認定医の取得を目標とする。その後、がん拠点病院等の地域の基幹病院における中心的人材としての活躍や、本学においてさらなる修練の継続および指導的立場での後進育成をおこなうことが期待される。また国内外施設への臨床・基礎研究留学の支援も積極的におこなっていく。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1	1	1	1	1	5
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度1人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数5人と設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	近畿大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	呼吸器腫瘍外科専門医養成コース						
対象職種・分野	医学研究科医学系専攻大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	高い臨床手技力と研究能力を併せ持つ呼吸器腫瘍外科医を養成する。先端の外科技術の修練や、希少がん及び難治がんの病態解明と分子標的治療開発を目指す研究を行い、学位取得ならびに、高い外科技術と先端ゲノム医療の基礎知識を有し、かつライフステージに応じた対応の出来るがん専門医師を養成する。						
修了要件・履修方法	必須科目24単位、選択科目6単位以上、合計30単位以上を履修する。がん研究関連の博士論文の審査及び最終試験に合格することを修了要件とする。						
履修科目等	< 必修科目 > 腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）（2単位）、腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）（2単位）、臓器病態制御外科学Ⅲ特論A（臨床的研究）（8単位）、臓器病態制御外科学Ⅲ特論B（講義・演習）（4単位）、呼吸器外科学（4単位）、腫瘍外科学実習（4単位） < 選択科目 > 臓器病態制御外科学Ⅲ特論B（実験的研究）（8単位）、がん緩和医療演習（2単位）、放射線腫瘍学実習（4単位）、分子腫瘍学（2単位）、がん薬物治療学（2単位）						
がんに関する専門資格との連携	呼吸器外科専門医（呼吸器外科専門医合同委員会）の専門医制度指定修練施設（認定施設）として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	呼吸器腫瘍外科領域、特に肺がん縮小手術、低侵襲手術、集学的治療としての外科治療、周術期薬物療法に関して、臨床研究、国際共同研究を通じて最先端の知識や技術の修得が可能である。また分子標的治療、免疫療法に関連したトランスレーショナルリサーチを行う。						
指導体制	各専門医・指導医資格を有する医師および基礎医学での博士号取得者が教育を担う。その他、関連する他科教官による講義・実習も予定する。						
修了者の進路・キャリアパス	呼吸器外科専門医の取得および、基礎医学から臨床研究転用までの幅広い知識を有する呼吸器腫瘍外科医として大学病院もしくはがん拠点病院等の地域における基幹病院でのリーダーとしての活躍を期待する。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1	1	1	1	1	5
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度1人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数5人と設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	近畿大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	分子腫瘍病理学コース						
対象職種・分野	医学研究科医学系専攻大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	腫瘍の組織病理診断に精通するとともに、病理標本を用いて腫瘍の分子診断を推進することができ、治療方針の決定に寄与し得る人材を育成する。加えて、地域医療の現状を理解し、地域に定着する病理診断医を育成する。						
修了要件・履修方法	必修科目24単位と臨床腫瘍学関連の選択科目6単位以上、合計30単位以上を修得し、4年修了時にはがん研究関連の博士論文の審査および最終試験に合格することを修了要件とする。優れた論文業績を挙げた場合には、3年で修了できる。						
履修科目等	<必修科目> 腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）（2単位）、腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）（2単位）、腫瘍病理学実習（8単位）、分子腫瘍病理学演習（8単位）、分子生物学演習（4単位） <選択科目> 診断病理学（2単位）、分子病理学（2単位）、分子腫瘍学（2単位）、腫瘍内科学特論（2単位）						
がんに関する専門資格との連携	病理専門医・分子病理専門医（日本病理学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	腫瘍の組織診断・分子診断を有機的に融合したプログラムを用いる。特に、腫瘍内科学教室と共同で、治療方針の決定に貢献し得る病理診断レポートについて実臨床ベースで体験学習を行う。本コースは初期研修医・病理専門研修専攻医を対象とするのは勿論のこと、病理専門医にもさらなる専門性向上の機会を提供するものである。						
指導体制	病理専門医、分子病理専門医、細胞診専門医等からなる専門医チームが外科病理研修指導及び基礎病理研究指導を行う上に、腫瘍内科学教室と協力することで臨床腫瘍学の理解を深められるよう教育体制を取っている。						
修了者の進路・キャリアパス	分子腫瘍学に精通した病理専門医として、大学病院やがんセンター、その他がんを診療する病院（国指定もしくは都道府県指定がん拠点病院等）において腫瘍診断をリードする人材となることを期待する。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1	1	1	1	1	5
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	大阪府南部地域の5つのがん拠点病院に病理専門医を最低3人ずつ配置することを目標にすると、同地域内の病理専門医数が10人のため今後5年間で5人養成する。また、過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度1人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を1人と設定。						



## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	近畿大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	がん専門薬剤師コース（正規課程）						
対象職種・分野	薬剤師(医学研究科大学院生)						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	がん専門薬剤師としてがん診療へ貢献する薬剤師。加えて新規抗がん薬の開発や、臨床試験を企画遂行する能力を有する研究者。						
修了要件・履修方法	必修科目24単位と臨床腫瘍学関連の選択科目6単位以上、合計30単位以上を修得し、3臓器以上の癌化学療法の臨床実習を行い50例以上のがん患者への薬学的介入実績を有する。4年修了時にはがん研究関連（臨床研究、がんゲノムや腫瘍免疫も含む基礎研究、トランスレーショナルリサーチ）の博士論文の審査および最終試験に合格することを修了要件とする。						
履修科目等	<必修科目> 腫瘍学Ⅰ 基盤講義（医療現場・学際領域）（2単位）、腫瘍学Ⅱ 横断講義（予防・研究開発）（2単位）、がん専門薬剤学実習（8単位）、SP演習（1単位）、CS演習（1単位）、外来がん専門薬剤学実習（8単位）、がんゲノムエキスパートパネル演習（2単位） <選択科目> 分子腫瘍学（2単位）、がん薬物治療学（2単位）、臨床腫瘍学演習Ⅰ（4単位）、がん臨床研究計画演習（2単位）、がんゲノム研究演習（4単位）、腫瘍免疫基礎研究演習（4単位）、がんトランスレーショナルリサーチ演習（4単位）						
がんに関する専門資格との連携	がん専門薬剤師（日本医療薬学会）の研修施設（基幹施設）として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	病院で勤務しながらOn the Job Trainingによりがん専門薬剤師の技能を習得する。また薬剤部と共同して研究に対する時間、資源を確保し、自ら臨床研究を企画、立案、遂行することを可能とする。特にエキスパートパネルへの参加を通じてがんゲノム診療に対する関わり方を学び、さらに希望すれば全ゲノム解析に関わることで薬理ゲノム学研究の手法を取得する。						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>がん専門薬剤師の実習について、病院内のがん専門薬剤師、がん薬物療法専門医による実地指導を行う。</li> <li>医学部の臨床系および基礎系講座の教員による研究指導体制をとる。</li> </ul>						
修了者の進路・キャリアパス	<ul style="list-style-type: none"> <li>がん専門薬剤師として、がん拠点病院等でがんの専門的診療に従事する。</li> <li>がん薬物療法に対する研究者として研究を行う。</li> <li>大学病院やがんセンター等にて研究の基盤となる人材となる。</li> </ul>						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	2	2	2	2	2	10
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	南大阪地域の16の国指定もしくは不指定のがん拠点病院にがん専門薬剤師を1人ずつ追加配置することを目標にするが、指導体制等も鑑みて年2人を受入目標人数として設定する。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	近畿大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	腫瘍内科専門医/がん薬物療法専門医インテンシブコース						
対象職種・分野	医学研究科医学系専攻大学院生						
修業年限（期間）	6か月～2年（腫瘍内科専門医/がん薬物療法専門医に必要な経験が得られるま						
養成すべき人材像	がん薬物療法の複雑化と共に腫瘍内科専門医/がん薬物療法専門医へのニーズは益々高くなっているが、その充足率は未だに低く、がん拠点病院であっても高いとは言えない。臓器横断的にがん薬物療法に必要な技能、経験を取得しがん薬物専門医として地域のがん診療に貢献する腫瘍診療医となることを目標とする。						
修了要件・履修方法	必修科目の受講、参加を必須とし、さらにはがん薬物療法専門医として必要な症例報告書の作成をもって修了とする。履修方法としては、本事業参加大学の腫瘍内科、血液内科を中心とした診療科にて合計6か月以上（1診療科あたり3か月以上）の病棟、外来実習を行うことで実際のがん診療を行う。						
履修科目等	履修内容 <必修科目> 腫瘍学Ⅰ 基盤講義（医療現場・学際領域）、腫瘍学Ⅱ 横断講義（予防・研究開発）、SP演習、CS演習 <選択科目> 腫瘍内科研修（近畿大学、神戸大学）血液内科研修（大阪公立大学）臨床腫瘍免疫演習、がんゲノムエキスパートパネル演習						
がんに関する専門資格との連携	がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	拠点病院として必要である腫瘍内科専門医/がん薬物療法専門医となるには複数の癌種に対する診療を実質的に経験する必要があるが、一部の大学病院やがんセンターを除くとその教育システムが確立されていない。本コースは専門医を育成するための実用的なコースとし、座学では無く一般的な医局による人事システムの枠組み外での中期研修によるOn the Job Trainingによる指導を中心とし、各診療施設へその技能、知識を還元することを主眼に置く。						
指導体制	各研修生に対してメンターを配置し、それぞれの研修医ががん薬物療法専門医となるにあたり不足している事項を検討することで適切なプログラムを相談の下で決定する。また評価にあたってはメンターが各指導医からフィードバックを受けながらも専門医症例報告書のレビューを行う。						
修了者の進路・キャリアパス	関西圏を中心にごがん拠点病院で腫瘍内科医として地域のがん診療に携わる他、がんセンターや大学病院の腫瘍内科にて教育や研究に従事することで、後進の腫瘍内科医を育成する。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1	1	1	1	1	5
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	全国のがん拠点病院にごがん薬物療法専門医を最低1人ずつ追加して充足することを目標とするが、指導体制を鑑みて目標人数を年一人と設定した。今後指導体制の充実を図ることでさらなる拡充を目指す。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	近畿大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	ゲノム医療に強い多職種がん専門医療人養成コース（インテンシブコース）						
対象職種・分野	多職種（医師、歯科医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、放射線技師、ソーシャルワーカー）を対象						
修業年限（期間）	6ヶ月間						
養成すべき人材像	遺伝子パネル検査の実施や結果の解釈に精通しているゲノム医療の専門医療人を育成する。						
修了要件・履修方法	修了要件：必修の実習・演習に4/5以上出席し、指定されたテーマについてレポートを提出すること。 履修方法：オンラインでの講義・演習及び対面での実習・演習。						
履修科目等	<p>&lt;必修科目&gt;</p> <p>がんゲノムエキスパートパネル実習(10時間)、腫瘍内科・治験症例検討カンファレンス実習（6時間）、がんゲノム外来実習(6時間)</p> <p>近畿大学病院等において、がんゲノム医療療法の臨床実習を行い、遺伝子パネル検査の実施の実際を学ぶ。</p> <p>実習では実際の症例のシーケンスデータを用いた解析を行い、エキスパートパネルで使用されるレポート作成を行う。</p> <p>また、遺伝子パネル検査を希望されている患者の外来実習を実施し、検査前、検査後に求められる医療人からの適切な情報提供のあり方、二次的所見への対応、出口戦略へのつなげ方などを学ぶ。</p> <p>&lt;選択科目&gt;</p> <p>腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）、腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）、CS演習、SP演習、近畿大学大学院総合理工学研究科理学専攻「がん予防医療の遺伝カウンセリングを学ぶ多職種医療人養成コース」の受講</p>						
がんに関する専門資格との連携	がん診療連携拠点病院、ゲノム医療拠点病院の人的要件に関連。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	地域で活躍するがん関連医療人に対して、座学だけではなく、ゲノム医療が現場で行われている様子を実習を通して経験して頂くことに新規性がある。 実際に症例を通じて専門家とディスカッションすることで、検査結果の解釈だけにとどまらず、遺伝子パネル検査の必要性など、治療方針の決定の実際を深く学ぶことが出来る。また、二次的所見の取り扱いを通じて、遺伝カウンセラーとの連携を学び、予防医療にも携わることを目指す。						
指導体制	がん薬物療法専門医、がん看護専門看護師、がん専門薬剤師、がんゲノム医療コーディネーター等からなる多職種が協働して行う。実習・演習に関しては、がん薬物療法専門医を指導者としたチームでの指導体制をとる。						
修了者の進路・キャリアパス	大学病院、がんセンター、地域のがん診療基幹病院でのがんゲノム医療コーディネーター						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		1	1	1	1	1	5
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	地域におけるがんゲノム医療コーディネーターの不足を勘案し、受入れ目標人数を1人/年度と設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	近畿大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	新たな治療法開発を支援する臨床研究コーディネーター養成コース（インテンシブコース）						
対象職種・分野	看護師、薬剤師、臨床検査技師、放射線技師、臨床心理士、栄養士等（臨床研究コーディネーターとしての職歴は問わず）						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	がんの新規治療法の開発及び標準治療確立を目指した安全で質の高い臨床試験・治験を支援し、患者中心の個別化医療を実践できる多職種がん専門医療人（臨床研究コーディネーター）						
修了要件・履修方法	修了要件：必須科目のうち、腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）・腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）に関しては、80%以上出席し履修すること。実習に関しては、合計8時間を履修すること。選択科目は、何れか1つの演習もしくは実習を選択すること。 履修方法：オンラインでの講義・演習及び対面での実習・演習。						
履修科目等	<必修科目> 腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）、腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）、近畿大学病院・臨床研究センター及びKHGRAC実習（6時間）、腫瘍内科・治験症例検討カンファレンス実習（2時間） <選択科目> CS演習、SP演習、がんゲノムエキスパートパネル実習						
がんに関する専門資格との連携	がん診療連携拠点病院、ゲノム医療拠点病院の人的要件に関連。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	多職種による共通の臨床腫瘍学講義を受講することで、がんの臨床試験・治験に関する基礎的知識のみならず、患者中心の個別化医療を実践するためのノウハウとスキルを習得する。また、近畿大学病院・臨床研究センター及びARO機能を持つKindai Hospital Global Research Alliance Center（KHGRAC）において、被験者対応等を含む実践的実習を行い、腫瘍内科が実施する治験症例検討カンファレンスにも参加することで、新規治療法開発・研究における諸問題に対応できる能力を習得する。						
指導体制	がん薬物療法専門医、がん看護専門看護師、がん専門薬剤師等からなる多職種が協働して行う。実習・演習に関しては、上級臨床研究コーディネーターを交えた指導体制をとる。						
修了者の進路・キャリアパス	大学病院、がんセンター、地域のがん診療基幹病院での臨床研究コーディネーター						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		1	1	1	1	1	5
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	全国的な臨床研究コーディネーター・リソース不足を勘案し、受入れ目標人数を1人/年度と設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	近畿大学大学院総合理工学研究科理学専攻
教育プログラム・コース名	遺伝カウンセラー養成課程コース
対象職種・分野	総合理工学研究科博士前期課程大学院生
修業年限（期間）	2年
養成すべき人材像	<p>がん患者およびその家族を対象にがん予防の推進を行う人材養成を行う。具体的には以下の項目を重点的に指導、養成する。</p> <p>(1) 分子遺伝学を含む遺伝学およびがんゲノム学の専門的知識に基づいた適切な情報提供ができる。</p> <p>(2) 臨床背景や家族歴からがんの超ハイリスクグループの遺伝性腫瘍例を拾い上げ、がん予防につなげることができる。</p> <p>(3) ゲノム情報から家族性腫瘍の可能性を予測し、がん予防につながる適切な遺伝医療へのサポートができる。またゲノム医療のエキスパートパネルにおける、遺伝子バリエーションの適切な評価、医療者や患者への正確な情報開示ができる。</p> <p>(4) 遺伝学的アセスメントを含む遺伝カウンセリングの提供を行う、あるいは適切な診療部門での診療を可能にする支援ができる。</p> <p>(5) 臨床およびゲノム情報から適切な治療選択、さらにはコンパニオン診断に関してわかりやすく説明ができる。</p> <p>(6) 患者・家族自身の自己決定の支援ができる。</p> <p>(7) 疾患ごとに適切なサーベイランスを行い、がん予防検診を含めたがん予防策の提示ができる。</p> <p>(8) 適切な遺伝カウンセリングを行うことで、身体的・精神的・社会的ケアやがん再発予防等ができる。</p>
修了要件・履修方法	<p>〈修了要件〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生物・環境化学特別研究（12単位）を含む17の必修科目（認定遺伝カウンセラー制度が定める）のすべて（44単位）、さらに専修科目の1科目（2単位）の課程を履修し、それぞれの試験に合格すること。</li> </ul> <p>〈履修方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義、演習、実習および特別研究の履修を行うこと。</li> <li>・生物・環境化学特別研究を行い、研究論文を提出し、最終試験の審査を受けること。</li> </ul>
履修科目等	<p>〈必修科目〉</p> <p>遺伝医療特論 講義（2単位）、分子遺伝学特論 講義（2単位）、人類遺伝学特論 講義（2単位）、人類遺伝学演習 演習（2単位）、遺伝医療と倫理 講義（1単位）、臨床遺伝学Ⅰ 講義（1単位）、臨床遺伝学Ⅱ 演習（1単位）、遺伝サービス情報学 演習（1単位）、カウンセリング特論 講義（2単位）、腫瘍学Ⅰ 基盤講義（医療現場・学際領域）（2単位）、腫瘍学Ⅱ 横断講義（予防・研究開発）（2単位）、遺伝カウンセリングⅠ 講義（1単位）、遺伝カウンセリングⅡ 演習（2単位）、医療特論 講義（1単位）、遺伝カウンセリング演習 演習（4単位）、遺伝カウンセリング実習 演習（6単位）、生物・環境化学特別研究 演習（12単位）</p> <p>〈専修科目（1科目を選択）〉</p> <p>タンパク質科学特論 講義（2単位）、病理学特論 講義（2単位）、地球化学特論 講義（2単位）、分子神経生物学特論 講義（2単位）、環境微生物学特論 講義（2単位）、行動内分泌学特論 講義（2単位）、免疫分子機能特論 講義（2単位）、ゲノム情報神経学特論 講義（2単位）、計算生命科学特論 講義（2単位）、発生生物学特論 講義（2単位）、環境生理学特論 講義（2単位）、生物データ科学特論 講義（2単位）、分子機能解析特論 講義（2単位）</p>
がんに関する専門資格との連携	認定遺伝カウンセラー養成の認定施設（人類遺伝学会、遺伝カウンセリング学会認定）

<b>教育内容の特色等 (新規性・独創性等)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義として「人類遺伝学」を基に、医療の全診療科に関わる疾患を病因、病態、診断、治療、遺伝学的検査、遺伝カウンセリング、心理サポート、社会資源の活用について学び、遺伝カウンセラーの基盤を形成する。</li> <li>・腫瘍に関しては腫瘍学Ⅰ基盤講義(医療現場・学際領域)、腫瘍学Ⅱ横断講義(予防・研究開発)を基に、がんの遺伝学総論と、遺伝性乳がん・卵巣がん症候群(HBOC)、リンチ症候群(遺伝性大腸がん)、家族性腺腫性ポリポーシスなど家族性腫瘍症候群や薬理遺伝学について学ぶ。</li> <li>・アクティブ・ラーニングを重視し、クライアントと医療者の立場を体験するロールプレイを実施することで、遺伝カウンセリングの重要性を理解する。</li> <li>・今回の申請では、がんハイリスク者に目を向け遺伝カウンセリング手技を身につける。がん発症者のみならず、がん発症の可能性のある血縁者、ハイリスク者の発症前からの遺伝カウンセリングをとおした教育、健診によるがん予防のできる人材を育成する。</li> </ul>						
<b>指導体制</b>	<p>近畿大学遺伝カウンセラー養成課程では、これまで全国の約20%の認定遺伝カウンセラーを輩出した。これまでのがんプロフェッショナル養成プランにて教育された、多様な専門領域を有する認定遺伝カウンセラーのOB、OGが全国から集まって、当大学院生それぞれのニーズに合わせた教育が可能である。上記の特色を以下の体制で指導する。</p> <p>〈職位〉 学内専任教員14名(教授5名、准教授4名、講師4名)、医学部兼任1名 客員教授2名、非常勤講師19名〈医療資格〉 医師16名、薬剤師3名〈遺伝専門資格〉 臨床遺伝専門医9名、認定遺伝カウンセラー8名</p>						
<b>修了者の進路・ キャリアパス</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課程修了に伴い認定遺伝カウンセラー制度委員会が行う認定遺伝カウンセラー認定試験の受験資格を得る。</li> <li>・認定試験の合格により認定遺伝カウンセラー資格を取得する。(更新制度あり)</li> <li>・医療施設の遺伝子診療部等で遺伝医療の専門職である認定遺伝カウンセラーとして遺伝カウンセリング業務に従事し、遺伝カウンセラー教員としてのキャリアを積む。</li> <li>・がん領域ではがん専門医療施設あるいはがん診療連携拠点病院等でのがんの遺伝カウンセリングに従事する。</li> <li>・各関連学会の参加、近畿大学のインテンシブコースなどで研修を積む。</li> </ul>						
<b>受入開始時期</b>	令和6年4月						
<b>受入目標人数</b> <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。  <small>※新規に設置したコースに限る。</small></small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
<b>受入目標人数(養成目標人数)設定の考え方・根拠</b>	府内の19つのがん拠点病院に遺伝カウンセラーを最低2人ずつ配置することを目標にする。既に充足している病院もあるため、府内の遺伝カウンセラーを今後5年間で10人養成する。また、過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度2人以上の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を10人と設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	近畿大学大学院総合理工学研究科理学専攻
教育プログラム・コース名	がん予防医療の遺伝カウンセリングを学ぶ多職種医療人養成コース
対象職種・分野	・全国の医療機関に在籍するがん診療に携わる医療従事者（医師、歯科医師、保健師、助産師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、社会福祉士等）・臨床遺伝専門医・認定遺伝カウンセラー・臨床心理士、さらにそれを目指す学生を対象とする。
修業年限（期間）	6ヶ月
養成すべき人材像	<p>がん患者およびその家族を対象にがん予防の推進を行う人材養成を行う。具体的には以下の項目を重点的に指導、養成する。</p> <p>がん患者および家族を対象に次の項目ができる人材養成を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 分子遺伝学を含む遺伝学およびがんゲノム学の専門的知識に基づいた情報提供ができる。</li> <li>2 臨床背景や家族歴から家族性腫瘍例を拾い上げができる。</li> <li>3 ゲノム情報から家族性腫瘍の可能性を予測できる。</li> <li>4 遺伝学的アセスメントを含む遺伝カウンセリングの提供を行うか、適切な診療部門に紹介できる。</li> <li>5 臨床およびゲノム情報から適切な治療選択が説明できる。</li> <li>6 患者・家族自身の自己決定のサポートができる。</li> <li>7 疾患ごとに適切なサーベイランスの提示ができる。</li> <li>8 適切な遺伝カウンセリングにより、がん発症のハイリスク者のがん予防、がん健診につなぐことができる。</li> </ol>
修了要件・履修方法	<p>〈修了要件〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コースの講義・演習に出席し、指定されたテーマの課題およびレポートを提出すること。</li> <li>・本インテンシブ・コースで学習した科目のレポート、小テスト試験等にて評価・修了とする。</li> </ul> <p>〈履修方法〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・系統講義、ロールプレイ演習により授業を行う。</li> <li>・ロールプレイ演習後のレポート作成、課題を抽出し、履修者全員で共有する。</li> </ul>
履修科目等	<p>〈履修内容〉</p> <p>講義内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 臨床遺伝学総論</li> <li>2 家系情報の聴取と家系図作成</li> <li>3 バリエーションの記載方法とIn Silico解析</li> <li>4 遺伝性腫瘍症候群Ⅰ (HBOC)</li> <li>5 遺伝性腫瘍症候群Ⅱ (Lynch症候群)</li> <li>6 遺伝性腫瘍症候群Ⅲ (その他の遺伝性腫瘍症候群)</li> <li>7 遺伝性腫瘍での遺伝カウンセリング</li> <li>8 遺伝子関連検査</li> <li>9 遺伝性腫瘍のマネージメント</li> <li>10 小児期から対応が必要な遺伝性腫瘍</li> <li>11 心理社会的支援の提供 (公的支援)</li> <li>12 心理社会的支援の提供 (多職種連携)</li> <li>13 遺伝学的リスクの評価</li> <li>14 臨床遺伝におけるコミュニケーションスキル</li> <li>15 ロールプレイ演習</li> </ol> <p>〈方法〉月1～2回程度実施、6ヶ月間を通じて行う形式で実施する。</p>
がんに関する専門資格との連携	臨床遺伝専門医研修施設、認定遺伝カウンセラー養成の認定施設（日本人類遺伝学会、日本遺伝カウンセリング学会認定）

<b>教育内容の特色等 (新規性・独創性等)</b>	<p>講義として「腫瘍学」を縦糸に「遺伝学」を横糸に、がんの遺伝学総論を述べ、各症候群については遺伝性乳がん・卵巣がん症候群 (HBOC)、リンチ症候群 (遺伝性大腸がん)、家族性腺腫性ポリポーシス、多発性内分泌腫瘍症1型/2型、リ・フラウメニ症候群 (LFS) などを取り上げる。特にアクティブ・ラーニングを重視し、クライアントと医療者の立場を体験するロールプレイを実施することで、遺伝カウンセリングの重要性を理解する。特に本インテンシブコースではがんハイリスク者をフォーカスし、がんの発症前からの患者指導、多数回の健診につながるように、遺伝カウンセリングを行う。これらの教育を通じて、質の高い臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラーの養成と輩出に努める。</p>						
<b>指導体制</b>	<p>近畿大学遺伝カウンセラー養成課程では、これまで全国の約20%の認定遺伝カウンセラーを輩出した。これまでのがんプロフェッショナル養成プランにて教育された、多様な専門領域を有する認定遺伝カウンセラーのOB、OGが全国から集まって、受講者のそれぞれのニーズに合わせたがんハイリスク者のがん予防につながる教育が可能である。</p>						
<b>修了者の進路・ キャリアパス</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん専門医療施設あるいはがん診療連携拠点病院等でのがん診療に従事する中で、遺伝学的な視野から当事者支援を行うことができる。</li> <li>・プレジジョン メディシンの一環としてのがん診療において高いレベルでの方針・治療選択に関わることができる。</li> <li>・遺伝性腫瘍診療に専門的知識を備えて臨むことができる。</li> <li>・遺伝性腫瘍の情報を基に、がん発症のハイリスク者に手厚い健診、遺伝カウンセリングを行うことで、がん予防につなげることを検討する。</li> </ul>						
<b>受入開始時期</b>	<p>令和6年5月</p>						
<b>受入目標人数</b> <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。  <small>※新規に設置したコースに限る。</small></small>	<p>R5年度</p>	<p>R6年度</p>	<p>R7年度</p>	<p>R8年度</p>	<p>R9年度</p>	<p>R10年度</p>	<p>計</p>
<b>受入目標人数(養成目標人数)設定の考え方・根拠</b>	<p>南大阪圏内の臨床遺伝専門医を最低1人ずつ養成すること、認定遺伝カウンセラーも同様に、最低2名ずつ養成することを本インテンシブコースの目標とする。また専門医や遺伝カウンセラー志望者以外からも毎年1人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を4人と設定した。</p>						
	<p>4</p>	<p>4</p>	<p>4</p>	<p>4</p>	<p>4</p>	<p>4</p>	<p>20</p>



## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	大阪公立大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	サステナブルながん医療を実践できるがん薬物療法専門医・研究者養成コース (正規課程)						
対象職種・分野	医師						
修業年限(期間)	3(早期終了)～4年						
養成すべき人材像	造血器腫瘍から主な固形がんまで腫瘍医療に必要な高い能力とトータルケアに必要な幅広い知識を身に付け、多職種の専門医療人と連携し標準治療・緩和治療・終末期医療まで集学的な治療・ケアにシームレスに対応できる腫瘍内科医を養成する。がんゲノム医療や免疫チェックポイント阻害薬を含む薬物療法に精通するがん薬物療法専門医を取得し、腫瘍循環器学や腫瘍腎臓病学等のがん関連学際領域に対応できる能力や医療ビッグデータを扱いがん予防医療を推進できる能力を有する医師を養成する。						
修了要件・履修方法	必修科目および選択科目で計30単位以上を履修し、博士論文審査および最終試験に合格すること。						
履修科目等	<p>&lt;必修科目&gt; 腫瘍学Ⅰ 基盤講義(医療現場・学際領域)(2単位)、腫瘍学Ⅱ 横断講義(予防・研究開発)(2単位)、CS演習(1単位)、SP演習(1単位)、がん医療学実習(6単位)、発表表現演習(2単位)、研究指導(8単位)、研究公正B(1単位)、医学研究概論(1単位)、医学研究基本演習(1単位)、医学研究セミナー(1単位)</p> <p>&lt;選択科目&gt;腫瘍遺伝学外科実習(4単位)、他専門科目</p>						
がんに関する専門資格との連携	がん薬物療法専門医(日本臨床腫瘍学会)の研修施設として認定。						
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	臓器横断的ながん薬物療法の演習・実習に加え、発症頻度は低い致死率が高い重篤な免疫療法の副作用(irAE)の対応に大学間および拠点周辺医療機関連携により効率的な症例経験により免疫チェックポイント阻害薬等の免疫療法を担う人材育成を行う。検診データを用いて先端予防医学講座、医療統計学講座と連携しビッグデータに基づく効率的かつ個別化されたがん予防医療を推進できる人材育成を行う。E-learningや病棟及び外来における演習及び実習を多職種の専門医療人や大学間と共同で行うことで多様性のある教育を行う。						
指導体制	がん薬物療法専門医、がん治療認定医、がん看護専門看護師、がん専門薬剤師からなる多職種が協働して行う。						
修了者の進路・キャリアパス	がん薬物療法専門医、がん治療認定医を取得する。大学病院やがんセンターで新たな治療法の開発や海外留学による研究で新たな個別化医療の発展を担う。地域中核拠点病院で地域に定着してがんゲノム医療や免疫チェックポイント阻害薬を含む薬物療法から痛みの治療・ケアなど緩和医療等、多職種連携による集学的な医療の発展を担う。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1	1	1	1	1	5

受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠

過去の大学院志願者数から毎年度1人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を5人と設定。

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	大阪公立大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	造血器腫瘍プレジジョン・メディシン（個別化医療）専門医養成コース（正規課程）						
対象職種・分野	医師						
修業年限（期間）	3（早期修了）～4年						
養成すべき人材像	造血器腫瘍において遺伝子変異情報に基づいた、より正確な診断や治療計画を立てることが出来る血液専門医を養成する。						
修了要件・履修方法	必修科目および選択科目で計30単位以上を履修し、博士論文審査および最終試験に合格すること。						
履修科目等	<必修科目> 腫瘍学Ⅰ 基盤講義（医療現場・学際領域）（2単位）、腫瘍学Ⅱ 横断講義（予防・研究開発）（2単位）、発表表現演習（2単位）、研究指導（8単位）、研究公正B（1単位）、医学研究概論（1単位）、医学研究基本演習（1単位）、医学研究セミナー（1単位） <選択科目> CS演習（1単位）、SP演習（1単位）、がん医療学実習（6単位）、他専門科目						
がんに関する専門資格との連携	血液医専門医（日本血液学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	次世代シーケンサーの発展により、造血器腫瘍特異的で網羅的な遺伝子異常の同定ができるようになってきている。造血器腫瘍においても欧米の診断・治療ガイドラインには、ゲノム情報が掲載され、ゲノム情報に基づく適切な診断・治療を行うことが推奨されている。造血器腫瘍においても固形腫瘍と同様に、がんゲノム医療実現に向けてのプレジジョン・メディシン（個別化医療）が行える血液専門医の育成は喫緊の課題といえる。加えて、プレジジョン・メディシンの遂行に必要なビッグデータ概念や医療ビッグデータの構築と解析を支える技術・知識である、医療情報に関連する法や指針の動向、データ収集方法、前処理方法、AI・機械学習、およびビッグデータ活用方法などを実際の造血器腫瘍のデータをベースに教育を行う。						
指導体制	血液内科専門医、指導医が行う。						
修了者の進路・キャリアパス	血液専門医を取得し、血液疾患領域におけるがんゲノム医療を実践できる医師として活躍が期待できる。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1	1	1	1	1	5
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	大阪府内の国指定の19、府指定50のがん拠点病院に血液専門医を最低4-5人ずつ配置することを目標にすると、大阪府の血液専門医数が332人のため今後5年間で5人養成する。また、過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度1人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を5人と設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	大阪公立大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	遺伝性腫瘍および癌ゲノム医療に対応する次世代型外科専門医・研究者養成コース（正規課程）						
対象職種・分野	医師						
修業年限（期間）	3（早期修了）～4年						
養成すべき人材像	腫瘍外科として高度な臨床力および癌ゲノム研究能力を併せ持つ外科医を養成する。腫瘍外科手技の修練と同時に、家族性腫瘍に精通する遺伝性腫瘍専門医を取得し高度な腫瘍医療の臨床力を有する腫瘍外科医を養成する。またバイオインフォマティクス技術者認定を取得し、癌ゲノムのC-CATデータ二次活用による治療解析能力を有する癌外科専門医師を養成する。						
修了要件・履修方法	必修科目および選択科目で計30単位以上を履修し、博士論文審査および最終試験に合格すること。						
履修科目等	<必修科目> 腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）（2単位）、腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）（2単位）、腫瘍遺伝学外科実習（4単位）、発表表現演習（2単位）、研究指導（8単位）、研究公正B（1単位）、医学研究概論（1単位）、医学研究基本演習（1単位）、医学研究セミナー（1単位） <選択科目> CS演習（1単位）、SP演習（1単位）、がん医療学実習（6単位）、他専門科目						
がんに関する専門資格との連携	がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）、遺伝性腫瘍専門医の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	腹部腫瘍外科におけるロボット支援手技の修練を行う。また、家族性腫瘍に精通する遺伝性腫瘍専門医および癌ゲノム医療データを用いたバイオインフォマティクス解析を実践できる外科医師の育成は他に類を見ない新規性および独創性の高い教育である。						
指導体制	外科指導医、消化器外科指導医、乳癌専門医による臨床手技指導。大阪公立大学難治癌TRセンター教員によるゲノム医療、遺伝性腫瘍、癌ゲノムのビッグデータ解析の指導。						
修了者の進路・キャリアパス	外科専門医およびサブスペシャリティ領域の専門医の取得。臨床手技力およびリサーチマインドを兼ね備えた次世代医療に対応する外科医として活躍が期待される。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1	1	1	1	1	5
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	過去の大学院志願者数から毎年度1人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を5人と設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	大阪公立大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	サステナブルな次世代型高精度放射線治療専門医・研究者養成コース（正規課程）						
対象職種・分野	医師						
修業年限（期間）	3（早期修了）～4年						
養成すべき人材像	あらゆる年齢のすべての患者さんが、苦痛や不安を感じることなく、高い生活の質と社会生活を維持しながら、がん治療に取り組むことを可能とする、安心・安全で精度の高い次世代型放射線治療を提供できる人材						
修了要件・履修方法	必修科目および選択科目で計30単位以上を履修し、博士論文審査および最終試験に合格すること。						
履修科目等	<必修科目> 腫瘍学Ⅰ 基盤講義（医療現場・学際領域）（2単位）、腫瘍学Ⅱ 横断講義（予防・研究開発）（2単位）、発表表現演習（2単位）、研究指導（8単位）、研究公正B（1単位）、医学研究概論（1単位）、医学研究基本演習（1単位）、医学研究セミナー（1単位） <選択科目> CS演習（1単位）、SP演習（1単位）、腫瘍遺伝学外科実習（4単位）、がん医療学実習（6単位）、他専門科目						
がんに関する専門資格との連携	放射線治療専門医（日本医学放射線学会）の研修施設として設立						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	根治治療から緩和的治療まで、個々の状況に応じて集学的にシームレスに対応できる幅広い知識と経験を有し、かつ先進的、高精度な放射線治療技術と新たなデータサイエンスの分野に精通し、ゲノム情報や新規画像解析技術を統合した次世代型低侵襲治療の推進に貢献できる放射線腫瘍医を養成する。						
指導体制	放射線治療専門医、医学物理士、がん放射線療法認定看護師、放射線治療専門技師が協働して行う。						
修了者の進路・キャリアパス	放射線治療専門医を取得し、大学病院または関連病院における放射線治療の質の向上と診療の充実をはかる。留学や国際学会を通じて国際的視野を養うとともに、次世代型高精度放射線治療の開発、推進に貢献する。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1	0	1	0	1	3
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	放射線科領域の専攻医募集において、近年、大阪府はシーリング対象地域となっており、年度毎の専攻数医は放射線科全体で平均3～4名、内、放射線治療を希望する専攻医は2年に1名程度であることから、5年間の大学院志願者数においてもほぼ同数の3名を目標数とした。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	大阪公立大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	小児・AYA世代の希少がんや遺伝性腫瘍の治療と晩期合併症に対応できる人材の養成コース（正規課程）						
対象職種・分野	医師						
修業年限（期間）	3（早期修了）～4年						
養成すべき人材像	小児およびAYA世代の白血病等血液悪性腫瘍、脳腫瘍、その他の固形腫瘍の治療およびその後の晩期合併症の管理にも対応できる小児血液・がん専門医を養成する。また家族性腫瘍・遺伝性腫瘍の治療とサーベイランスも行うことができる医師を養成する。						
修了要件・履修方法	必修科目および選択科目で計30単位以上を履修し、博士論文審査および最終試験に合格すること。						
履修科目等	<必修科目> 腫瘍学Ⅰ 基盤講義（医療現場・学際領域）（2単位）、腫瘍学Ⅱ 横断講義（予防・研究開発）（2単位）、CS演習（1単位）、SP演習（1単位）、がん医療学実習（6単位）、発表表現演習（2単位）、研究指導（8単位）、研究公正B（1単位）、医学研究概論（1単位）、医学研究基本演習（1単位）、医学研究セミナー（1単位） <選択科目> 関連のある専門科目						
がんに関する専門資格との連携	日本小児血液・がん専門医（日本小児血液・がん学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	小児がんは頻度が少なく、白血病等の血液悪性腫瘍のほか脳腫瘍、神経芽腫等の固形腫瘍を含む。治療の改善により小児がんの生存率は大幅に上昇したが、小児期の発達成長途上に受けた化学療法や放射線治療、手術等の治療が生殖機能や内分泌機能に及ぼす影響や二次がんなどの晩期合併症が問題となっている。また、がんゲノムの普及につれてリ・フラウメニ症候群などの家族性腫瘍・遺伝性腫瘍が発見される機会が増えている。これらの多様な問題に対応できる医師を養成するため、ゲノム医療センターと協力し小児血液・がん専門医・指導医が教育する。						
指導体制	小児血液・がん専門医・指導医および臨床遺伝専門医が指導						
修了者の進路・キャリアパス	小児血液・がん専門医を取得し、小児およびAYA世代のがんと家族性腫瘍・遺伝性腫瘍の治療・サーベイランスが的確に行え、また、治療終了後の晩期合併症の管理ができる医師として活躍が期待できる。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	0	1	0	0	0	1
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	小児期およびAYA世代のがんと家族性腫瘍・遺伝性腫瘍は希少なため小児血液・がん専門医も少数でよいが、過去の大学院志願者数から3～4年に1人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を1人と設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	大阪公立大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	サステナブルながん予防のシステム構築と実践ができる健診専門医養成コース (正規課程)						
対象職種・分野	医師						
修業年限(期間)	3(早期修了)～4年						
養成すべき人材像	一次予防・二次予防・三次予防を理解し実践できる人材育成を行う。具体的には、検診を含む予防医療の演習・実習に加え、早期がんの発見、告知、診断、治療、社会復帰に関わることでできる人材育成を行う。がん患者には2次癌の発生が多いことより、がん経験者に対する再発予防、身体的・精神的・社会的ケアや社会復帰後のさらなる予防医療の実践やがん予防に関わる新たなバイオマーカーの開発を担う。検診データや検診バイオバンクを用いてビッグデータに基づく効率的かつ個別化された新たながん予防医療を推進できる人材育成を行う。						
修了要件・履修方法	必修科目および選択科目で計30単位以上を履修し、博士論文審査および最終試験に合格すること。						
履修科目等	<必修科目> 腫瘍学Ⅰ 基盤講義(医療現場・学際領域)(2単位)、腫瘍学Ⅱ 横断講義(予防・研究開発)(2単位)、発表表現演習(2単位)、研究指導(8単位)、研究公正B(1単位)、医学研究概論(1単位)、医学研究基本演習(1単位)、医学研究セミナー(1単位) <選択科目> CS演習(1単位)、SP演習(1単位)、腫瘍遺伝学外科実習(4単位)、がん医療学実習(6単位)、他専門科目						
がんに関する専門資格との連携	日本人間ドック学会認定医、人間ドック健診専門医(日本総合健診医学会・日本人間ドック学会) 日本臨床腫瘍学会認定がん薬物療法専門医、日本がん治療認定医機構認定医、肺がんCT検診認定医、日本乳癌学会専門医、検診マンモグラフィ読影認定医・乳房超音波読影認定医の暫定研修施設として認定。						
教育内容の特色等(新規性・独創性等)	糖尿病を含む生活習慣病から主な固形がんまで、がん予防に必要な幅広い知識を取得する。がんスクリーニングにおける各種マーカーの意義を理解する。多領域の専門医と連携し診断方法、標準治療・社会復帰まで集学的な治療・ケアを理解した健診専門医を養成する。また、社会復帰後のがんサバイバーに対するケア(再発予防、身体的・精神的・社会的ケア)を実践できる医師を養成する。腫瘍循環器学や腫瘍腎臓病学等のがん関連学際領域に対応できる能力や医療ビッグデータを扱いがん予防医療を推進できる能力を有する医師を養成する。						
指導体制	人間ドック健診専門医・指導医、がん薬物療法専門医、日本呼吸器学会専門医、日本消化器病学会専門医、日本肝臓病学会専門医、日本乳癌学会専門医、日本産科婦人科学会専門医、日本糖尿病学会認定専門医、日本腎臓病学会認定専門医、日本外科学会専門医、日本内科学会認定総合内科専門医からなる多分野の専門医集団が協働して行う。						
修了者の進路・キャリアパス	がん薬物療法専門医、がん治療認定医を取得する。また、人間ドック健診専門医や多分野のうち興味のある分野の専門医も取得する。市民医学講座等にて地域住民にがん予防を啓蒙しコロナ禍で低迷したがん検診普及等、あらゆる年齢の人々の健康寿命延伸のため福祉活動やがん予防医学領域で活躍する。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1	1	1	1	1	5
受入目標人数(養成目標人数)設定の考え方・根拠	毎年度1人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を5人と設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	大阪公立大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	医療ビックデータ専門医養成コース（正規課程）						
対象職種・分野	医師						
修業年限（期間）	3（早期修了）～4年						
養成すべき人材像	昨今、DPCや電子カルテデータ等医療ビックデータを意思決定や研究に利用活用できる人材が求められている。本コースでは、生物統計家として実務に携わる上で知っておくべき統計学及び疫学の基礎理論を学んだ上で、がん領域の臨床研究及びビックデータを用いた統計解析を行うことのできる人材を育成する。						
修了要件・履修方法	必修科目および選択科目で計30単位以上を履修し、博士論文審査および最終試験に合格すること。						
履修科目等	<必修科目> 腫瘍学Ⅰ 基盤講義（医療現場・学際領域）（2単位）、腫瘍学Ⅱ 横断講義（予防・研究開発）（2単位）、発表表現演習（2単位）、研究指導（8単位）、研究公正B（1単位）、医学研究概論（1単位）、医学研究基本演習（1単位）、医学研究セミナー（1単位） <選択科目> CS演習（1単位）、SP演習（1単位）、腫瘍遺伝学外科実習（4単位）、がん医療学実習（6単位）、他専門科目						
がんに関する専門資格との連携	がん薬物療法専門医、がん治療認定医、血液専門医や人間ドック健診専門医等と連携し、がん領域におけるビックデータを有効に活用し、新規治療効果やがん予防の新知見の発見などを行っていく。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	当教室では、約4,000万人の患者データを保有するメディカルデータビジョン社から各種がん領域のデータベースを購入し、多くの大学院生が研究に活用している。また、本学では世界アカデミアが利用する電子データ集積システムREDCapシステムを中心に、AROのデータセンター機能を有し、医薬品開発における臨床試験統計解析の手法の立案、データ収集、統計解析等を過去5年間で約1,500件支援している実績がある。本コースでは臨床研究で多用される統計学や疫学、臨床試験学の基礎的コンセプトを理解し、統計的考察により、臨床試験の様々な局面における統計手法のあり方について自らの意見を持ち自らプロトコルなどを作成できると同時に、医療ビックデータを用いたデータ解析を遂行できる高度なプログラミング手法を学ぶ。						
指導体制	医療統計学教室の教員（教授、准教授、講師、助教 各1名）が直接指導を行う。						
修了者の進路・キャリアパス	医療ビックデータ専門医を取得し、大学病院、がんセンター、地域中核拠点病院で活躍する。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1	1	1	1	1	5
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	都道府県内の5つのがん拠点病院に医療ビックデータ専門医を最低1人ずつ配置することを目標にすると、今後5年間で5人養成する。						



## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	大阪公立大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	同種造血幹細胞移植、免疫細胞療法指導医養成コース（正規課程）						
対象職種・分野	医師						
修業年限（期間）	3（早期修了）～4年						
養成すべき人材像	同種造血幹細胞移植・免疫細胞療法の立ち上げとチーム作り、維持管理できる人材。						
修了要件・履修方法	必修科目および選択科目で計30単位以上を履修し、博士論文審査および最終試験に合格すること。						
履修科目等	<必修科目> 腫瘍学Ⅰ 基盤講義（医療現場・学際領域）（2単位）、腫瘍学Ⅱ 横断講義（予防・研究開発）（2単位）、発表表現演習（2単位）、研究指導（8単位）、研究公正B（1単位）、医学研究概論（1単位）、医学研究基本演習（1単位）、医学研究セミナー（1単位） <選択科目> CS演習（1単位）、SP演習（1単位）、がん医療学実習（6単位）、他専門科目						
がんに関する専門資格との連携	造血幹細胞移植推進拠点病院（厚生労働省）として認定、CAR-T細胞療法認定施設						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	同種造血幹細胞移植の移植源は、移植後エンドキサンによるGVHD（graft-versus-host disease）予防の開発によって血縁HLA半合致ドナーへも拡大してきているため多様化し、移植法の選択もさらに複雑になっている。また、近年、遺伝子改変T細胞である、CAR（chimeric antigen receptor）-T細胞療法による免疫療法の登場とともに、その適応や合併症などの管理が複雑になっている。このような背景から本コースでは同種造血幹細胞移植・免疫細胞療法の立ち上げとチーム作り、維持管理できる人材育成を目指す。						
指導体制	造血幹細胞移植認定医、細胞治療認定管理師、およびHCTCをはじめとした多職種からなる移植サポートチームが協働して行う。						
修了者の進路・キャリアパス	血液医専門医、日本造血・免疫細胞療法学会認定医、および細胞治療認定管理師を取得し、自施設の学会認定を得る。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1	1	1	1	1	5
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	大阪府内の国指定の19のがん拠点病院に日本造血・免疫細胞療法学会認定医を最低4-5人ずつ配置することを目標にすると、大阪府の日本造血・免疫細胞療法学会認定医が88人のため今後5年間で5人養成する。また、過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度1人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を5人と設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	大阪公立大学大学院看護学研究科						
教育プログラム・コース名	がんと共生を支えるがん看護専門看護師教育プログラム（正規課程）						
対象職種・分野	看護師・がん看護学分野						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	がんサバイバーががんと共生するうえで直面する課題に対して、高度な看護実践を提供し、がん医療やがん看護の質の向上に貢献できる人材。						
修了要件・履修方法	本教育プログラム内容が反映された科目38単位を履修し、試験に合格すること。						
履修科目等	<p>&lt;必修科目&gt;</p> <p>共通教育科目：研究公正A(1単位)</p> <p>専門基礎科目：がん病態学(2単位)、フィジカルアセスメントA(2単位)、病態生理学(2単位)、臨床薬理学(2単位)、理論看護学(2単位)、看護学研究法(2単位)、看護倫理学(2単位)、看護政策学(1単位)</p> <p>専門科目：がん看護学特論(2単位)、がん看護学援助特論(2単位)、がん緩和ケア論(2単位)、がん薬物療法看護論(2単位)、がん看護学演習1B(2単位)、がん看護学演習2B(2単位)、がん看護学実習A(2単位)、がん看護学実習B(4単位)、がん看護学実習C(4単位)、課題研究(2単位)</p> <p>&lt;選択科目&gt;</p> <p>相談支援・コーディネーター論（15時間・7.5コマ）</p> <p>腫瘍学Ⅰ 基盤講義（医療現場・学際領域）：臨床腫瘍学概論(2単位)、腫瘍学Ⅱ 横断講義（予防・研究開発）：臨床腫瘍学各論(2単位)、SPを用いた意思決定支援研修（SP演習）：(1単位)、多職種による事例検討演習（CS演習）(1単位)を用いた演習など。</p>						
がんに関する専門資格との連携	がん看護専門看護師（日本看護系大学協議会）の教育施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<p>がんと共生を支え、がんサバイバーの身体的・精神的・社会的ケアにあたる人材を養成するために、以下の実践的で特徴的な教育内容・方法を取り入れる。</p> <p>(1) がんと共生する上で直面する課題として、医療現場や地域・在宅におけるゲノム医療・遺伝性腫瘍の課題や、緩和医療における課題、療養生活における課題（就学・就労、妊産性、情報弱者への適切な情報提供と意思決定支援）を取り上げ、それらの課題に関する相談支援ならびにがんに関する情報提供等ができる能力を涵養するために、アサーションを中心とした社会的スキルを取り入れたシミュレーションと現地での演習を組み合わせで行う。これは、がんサバイバーに相談支援を行った経験が乏しい受講者にとって、段階的に学習できる機会となり、実践力の育成に役立つ。また、(2) がん患者・家族に対して、多職種・地域連携を基盤とした緩和ケアを提供する能力を養成するために、痛みを中心としたさまざまな症状を取り上げ、最新の医学的知識・診察技術を基盤とした看護実習を行う。</p>						
指導体制	がん看護学を専門とする教授、准教授、講師（がん看護専門看護師）が主たる指導者となる。学外でも協力が得られるがん看護専門看護師が、講義・演習における講師陣として、また実習における臨床教授、准教授、講師として院生指導にあたる。						
修了者の進路・キャリアパス	がんサバイバーががんと共生するうえで直面する課題に対応する部署を中心に組織横断的に、がん看護専門看護師としての役割開発を行い、がんサバイバーの生活の質の向上に寄与できる。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	2	2	2	2	2	10

受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠

過去の大学院志願者数及び入学者の実績から毎年度2～3人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を2人と設定。

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	大阪公立大学大学院看護学研究科						
教育プログラム・コース名	がんと共生を支える専門看護師強化プログラムA（インテンシブコースA） 持続的かつシームレスなケアの実現に向けた能力向上プログラム						
対象職種・分野	専門看護師認定取得後10年以内に相当する者（CNSラダー1～2に相当するがん看護専門看護師）、その他の分野の専門看護師（在宅看護専門看護師、小児看護専門看護師、家族支援看護専門看護師、老人看護専門看護師、慢性疾患看護専門看護師、急性・重症患者看護専門看護師、感染看護専門看護師、精神看護専門看護師、遺伝看護専門看護師、放射線看護専門看護師など）						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	医療機関および地域において持続的かつシームレスにがんサバイバーへのケアを実現するために、質の高い相談支援や調整を円滑に行うことができ、また、地域住民に向けた的確な情報提供を行う能力を有して、地域住民とがんサバイバーのQOLに寄与する人材。						
修了要件・履修方法	本教育プログラムで定める科目について、オンラインで12時間、対面で18時間、合計30時間を履修し、最終試験による評価で60%以上を取得すること。						
履修科目等	<選択科目> 相談支援・コーディネート論（15時間・7.5コマ） がん予防教育演習（15時間・7.5コマ） <div style="text-align: right;">合計30時間</div>						
がんに関する専門資格との連携	高度実践看護師						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	地域住民やがんサバイバーへの相談支援や、ケアにおける調整のために用いるアサーティブコミュニケーションスキルと教育的スキルを育成する。それらの習得によって専門看護師が現場で実践する際の複雑で解決困難な問題を解決する能力を高めることを目指す内容である。 社会人でもある受講者に配慮して、講義では同期型あるいは非同期型オンライン授業を取り入れ、対面での演習を実施する。						
指導体制	専門看護師教育に携わる教授・准教授・講師（がん看護専門看護師）が主たる者となる。学外でも協力が得られる専門看護師が講義・演習における講師陣として指導にあたる。						
修了者の進路・キャリアパス	本教育プログラム修了者は、専門看護師として、各所属施設のがん相談支援センターなどにおいて、質の高いがん相談や調整を行い、地域と連携して、住民のがん予防に対する啓発に従事することが可能になる。						
受入開始時期	令和6年4月～						
受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	2	2	2	2	2	10
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	過去の大学院修了者数の実績から毎年度2～3人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を2人と設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	大阪公立大学大学院看護学研究科						
教育プログラム・コース名	がんと共生を支える専門看護師強化プログラムB（インテンシブコースB） 地域共生社会の実現に向けたがんサバイバー相談システム構築支援プログラム						
対象職種・分野	専門看護師認定取得後10年以内に相当する者（CNSラダー1～2に相当するがん看護専門看護師）、その他の分野の専門看護師（在宅看護専門看護師、小児看護専門看護師、家族支援看護専門看護師、老人看護専門看護師、慢性疾患看護専門看護師、急性・重症患者看護専門看護師、感染看護専門看護師、精神看護専門看護師、遺伝看護専門看護師、放射線看護専門看護師など）						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	がんサバイバーががんと共に自分らしく生きることのできる地域共生社会を実現するために、管理的な視点を有して組織と調整を図り、施設内および地域との連携を含めたがんサバイバーの相談システムを構築することに貢献できる人材						
修了要件・履修方法	本教育プログラムで定める科目について、オンラインで12時間、対面で18時間、合計30時間を履修し、最終試験による評価で60%以上を取得すること。						
履修科目等	<選択科目> 相談支援コーディネイト論（15時間・7.5コマ）、 看護相談ネットワーク開発演習（15時間・7.5コマ）合計30時間						
がんに関する専門資格との連携	高度実践看護師						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	管理的な視点を持って戦略的にシステムを構築する戦略と、アサーションを取り入れた方法論を併せて学ぶことができるように教育内容を構成する。 社会人でもある受講者に配慮して、講義では同期型あるいは非同期型オンライン授業を取り入れ、対面での演習を実施する。						
指導体制	専門看護師教育に携わる教授・准教授・講師（がん看護専門看護師）が主たる指導者となる。学外でも協力が得られる専門看護師が講義・演習における講師陣として指導にあたる。						
修了者の進路・キャリアパス	専門看護師としてがんサバイバーケアに携わりながら、現場に即した相談システムを構築することが可能になる。						
受入開始時期	令和6年4月～						
受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	2	2	2	2	2	10
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	過去の大学院修了者数の実績から毎年度2～3人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を2人と設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	神戸大学大学院医学研究科
教育プログラム・コース名	がんプロフェッショナル養成プログラム（次世代がん個別化医療開発のための医師育成コース）
対象職種・分野	医学研究科医科学専攻大学院生（博士課程）
修業年限（期間）	4年
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 固形がんあるいは/および造血器腫瘍に対するがん個別化薬物治療を推進し、他部門や多職種と連携し新規治療薬や診断薬を開発するための個別化医療の臨床試験を立案・企画・遂行できる人材。</li> <li>・ 臨床研究中核拠点病院やがんゲノム医療拠点病院と連携しがん個別化医療を推進し、地域でのがん個別化医療を実践できる人材。</li> </ul> <p>トランスレーショナル研究を推進できる人材を育成する。</p>
修了要件・履修方法	専門科目24単位、共通科目6単位、合計30単位を履修し、博士論文を提出し、学位審査に合格すること。
履修科目等	<p>【専門科目】24単位</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○専攻する分野（腫瘍・血液内科学）の授業科目</li> <li>・腫瘍・血液内科学特別研究Ⅰ（6単位）</li> <li>・腫瘍・血液内科学特別研究Ⅱ（4単位）</li> <li>・腫瘍・血液内科学演習（3単位）</li> <li>・腫瘍・血液内科学臨床実習（2単位）</li> </ul> <p>○他の分野の授業科目（特別研究Ⅱ及び臨床実習を除く）から9単位</p> <p>【共通科目】6単位</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）（必修）（2単位）</li> <li>○腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）（必修）（2単位）</li> <li>○次世代がんプロフェッショナル養成特論（必修）（1単位）</li> <li>○医学研究先端講義（1単位）</li> <li>○その他大学院特別講義から1単位</li> </ul>
がんに関する専門資格との連携	がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）・血液専門医（日本血液学会）の研修施設として認定。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主な基盤とする腫瘍・血液内科は固形がん、造血器悪性腫瘍を問わずすべてのがんの薬物治療を実施し新既治療の開発研究を行っている点が特色であり、これと他部門が協力ががん個別化医療を開発する臨床試験、トランスレーショナル研究を推進できる人材を育成する。</li> <li>・ 神戸大学医学部附属病院は臨床研究中核拠点病院でもありがんゲノム医療拠点病院でもあるため、個別化医療のための臨床研究が可能な環境にある。臨床ゲノム診療・研究センターにおいて腫瘍・血液内科が中心となりがんゲノムパネル検査等を実施しており、診療・新規薬剤の開発研究を体系的に教育することが可能である。</li> <li>・ 神戸大学医学部附属病院と関連病院との地域連携によるがん個別化医療開発を支援・推進する方法を修得し、地域でのがん個別化医療を開発・実践できる人材を養成する。</li> <li>・ 免疫チェックポイント阻害薬の臨床開発・トランスレーショナル研究の実績を活かして、個別化がん免疫治療を開発できる人材を養成する。</li> </ul>

<p><b>指導体制</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・神戸大学医学部附属病院は臨床研究中核病院かつがんゲノム医療拠点病院であり、がんゲノムパネル検査に基づく個別化医療の臨床試験を推進する体制は整備されている。</li> <li>・基盤とする腫瘍・血液内科にはFirst-in-humanを始めとする国際がん臨床試験の責任医師を務めている教員が複数在籍し、最先端の薬物療法の開発研究を実施・指導する体制は整っている。</li> <li>・臨床研究中核拠点病院である神戸大学医学部附属病院には臨床研究推進センターを中心に臨床試験の教育指導体制は構築されている。</li> <li>・がんゲノムパネル検査を実施するにあたり病理学・基礎医学と臨床医学の教員の協力体制は確立しており、これを基盤にしてがん基礎医学と臨床医学を包括した指導を行う。未発症者の対応経験が豊富な臨床遺伝専門医もがんゲノムパネル検査医療に参加しており、遺伝性腫瘍に関する教育体制もある。</li> <li>・がんゲノムパネル検査を中心として個別化医療を多職種連携で実施しており、これをチームの一員として実習させる。</li> <li>・新規免疫チェックポイント阻害薬の臨床開発を実施し、また承認後の免疫チェックポイント阻害薬医療を個別化するためのトランスレーショナル研究を実施しており、指導体制は確立している。</li> <li>・抗悪性腫瘍薬の臨床薬理学の専門家による薬理的知見に基づいた個別化がん薬物療法を教育する体制はすでに構築している。</li> <li>・がん薬物治療や腫瘍循環器学などがんおよびがん治療の合併症や、小児がんサバイバーの移行期医療に関する講演会等を実施した実績があり、これに対応できる人材を養成する。</li> <li>・抗悪性腫瘍薬の臨床試験を実施し多くの教育活動を行っている日本臨床腫瘍研究グループ、西日本がん研究機構、日本臨床腫瘍学会などの太いパイプを活かし、これらが提供するワークショップやセミナー等に積極的医参加させることにより、抗悪性腫瘍薬臨床試験の立案・企画能力を錬成する。</li> </ul>							
<p><b>修了者の進路・キャリアパス</b></p>	<p>固形がん・造血器腫瘍に対する個別化医療を推進・開発できる人材として、がんゲノム医療拠点・連携病院等でがんゲノム医療に基づく個別化医療を推進するとともに、臨床研究中核病院としての神戸大学医学部附属病院において、分子標的薬やコンパニオン診断薬、新規免疫療法等の新たな治療法開発を担う。</p>							
<p><b>受入開始時期</b></p>	<p>令和6年4月</p>							
<p><b>受入目標人数</b>  <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。  <small>※新規に設置したコースに限る。</small></small></p>	<p>R5年度</p>	<p>R6年度</p>	<p>R7年度</p>	<p>R8年度</p>	<p>R9年度</p>	<p>R10年度</p>	<p>計</p>	
<p><b>受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠</b></p>	<p>がん薬物療法専門医・血液専門医を有し、神戸大学医学部附属病院において新たな個別化治療を開発できる人材を3人、関連病院においてこれと協力してがんゲノムに基づく個別化医療や新たな治療を開発するための臨床試験に協力できる人材を、各病院に1～2名を配置するために、これらの人材を今後5年間で10人養成することを目標とする。過去の大学院入学者数毎年度2人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を10人と設定。</p>							

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	神戸大学大学院医学研究科
教育プログラム・コース名	がんプロフェッショナル養成プログラム（地域定着型放射線治療医育成コース）
対象職種・分野	医学研究科医科学専攻大学院生（博士課程）
修業年限（期間）	4年
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希少がんや難治性がん、小児・AYA世代～高齢者まで各々の患者に対して最適な放射線治療（根治的放射線治療、緩和的放射線治療）を実践できる人材を養成する。</li> <li>・多職種連携による集学的な痛みの治療の中で、適切に緩和的放射線治療を実践できる人材を養成する。</li> <li>・手術や薬物療法の知識も兼ね備え、カンサーボードの中心的役割を担えるような総合がん治療医の要素を持った人材を育成する。</li> </ul>
修了要件・履修方法	専門科目24単位、共通科目6単位、合計30単位を履修し、博士論文を提出し、学位審査に合格すること。
履修科目等	<p>【専門科目】24単位</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○専攻する分野（放射線腫瘍学）の授業科目</li> <li>・放射線腫瘍学特別研究Ⅰ（6単位）</li> <li>・放射線腫瘍学特別研究Ⅱ（4単位）</li> <li>・放射線腫瘍学演習（3単位）</li> <li>・放射線腫瘍学臨床実習（2単位）</li> </ul> <p>○他の分野の授業科目（特別研究Ⅱ及び臨床実習を除く）から9単位</p> <p>【共通科目】6単位</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○腫瘍学Ⅰ 基盤講義（医療現場・学際領域）（必修）（2単位）</li> <li>○腫瘍学Ⅱ 横断講義（予防・研究開発）（必修）（2単位）</li> <li>○次世代がんプロフェッショナル養成特論（必修）（1単位）</li> <li>○医学研究先端講義（1単位）</li> <li>○その他大学院特別講義から1単位</li> </ul>
がんに関する専門資格との連携	放射線治療専門医（日本医学放射線学会・日本放射線腫瘍学会）の研修施設として認定。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	兵庫県立粒子線医療センター（陽子線と炭素イオン線を使用できる世界初の施設）や神戸陽子線センター（兵庫県立こども病院に隣接し、小児がんに重点を置いた陽子線治療施設）、兵庫県立がんセンター（都道府県がん診療連携拠点病院）と連携し、高精度放射線治療、小線源治療、粒子線治療等の多種の臨床実習を実施する。
指導体制	<p>高い専門性を持つ放射線腫瘍学教員（放射線治療専門医、医学物理士）や関連診療科の教員による指導体制が準備されている。</p> <p>臨床実習において、多職種連携の現場を体験し、チームの一員として活動させる。</p> <p>腫瘍・血液内科や小児科、頭頸部外科、婦人科などとも協力し、標準治療だけでなく、がんゲノム医療など、対象となる患者にとっては何が一番よいのかをチームで考える体制をとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カンサーボードを活用し、臓器横断的な総合がん治療医の素養を持った放射線治療医を育成する。</li> </ul>
修了者の進路・キャリアパス	全てのがん患者を対象に患者の個人レベルで最適な治療方法を分析・選択し放射線治療を提供できる放射線治療専門医として、地域の放射線治療施設に勤務する。
受入開始時期	令和6年4月



受入目標人数	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	0	1	1	1	1	1	5
<b>受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠</b>	県内の関連放射線治療施設（がん診療連携拠点病院）に最低2人の放射線治療専門医を配置することを目標にすると、現在10人が不足しており、今後5年間で10人養成する必要がある。過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度1～2人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を5人と設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	神戸大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	がんプロフェッショナル養成プログラム（地域定着型病理診断医育成コース）						
対象職種・分野	医学研究科医科学専攻大学院生（博士課程）						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	臓器横断的にがんの病理診断・ゲノム診断を修得し、患者背景も理解しながら高い倫理観をもって、高度な専門知識・技能を身につける。腫瘍の遺伝子異常とそれに基づく治療を想定したうえで、適切な病理診断・ゲノム診断を行えることを目標とする。クリニカルクエストを紐とくリサーチマインドを持った国際的に活躍できるがん専門病理専門医を養成する。						
修了要件・履修方法	専門科目24単位、共通科目6単位、合計30単位を履修し、博士論文を提出し、学位審査に合格すること。						
履修科目等	<p>【専門科目】24単位</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○専攻する分野（腫瘍・血液内科学）の授業科目</li> <li>・病理診断学特別研究Ⅰ（6単位）</li> <li>・病理診断学特別研究Ⅱ（4単位）</li> <li>・病理診断学演習（3単位）</li> <li>・病理診断学臨床実習（2単位）</li> <li>○他の分野の授業科目（特別研究Ⅱ及び臨床実習を除く）から9単位</li> </ul> <p>【共通科目】6単位</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）（必修）（2単位）</li> <li>○腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）（必修）（2単位）</li> <li>○次世代がんプロフェッショナル養成特論（必修）（1単位）</li> <li>○医学研究先端講義（1単位）</li> <li>○その他大学院特別講義から1単位</li> </ul>						
がんに関する専門資格との連携	病理専門医（日本病理学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	すべてのがん診療を対象として、がんの病理診断を主な基盤として、他診療科や他職種と連携し病理診断の基礎的知識、応用的運用を体系的に教育する。さらに、遺伝子を扱った実験を通してゲノム診断、ゲノム医療にも精通する人材を育成する。また、神戸市内外の総合病院と連携し、地域病院でのがん医療にも携わり、地域連携体制の構築への支援・推進の方法を修得する。						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病理部内外での多職種連携の現場を体験し、チームの一員として活動させる。</li> <li>・学内の実習担当教員と学外の臨床教授等、教員が協力し、基礎研究と臨床情報包括した指導を行う。がんゲノム医療に対応できる医師の育成も行う。</li> <li>・海外演者を招聘し、講演会を開催する。</li> </ul>						
修了者の進路・キャリアパス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全てのがんを対象に、臓器横断的に、幅広い知識をもって、正確な病理診断を行い、がんゲノム医療にも柔軟に対応できる病理専門医。</li> </ul>						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1	0	1	0	1	3
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	兵庫県内の3つのがん拠点病院に病理専門医を最低1人ずつ配置することを目標にすると、兵庫県の病理専門医数が106人のため今後5年間で3人養成する。また、過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から2年あたり1人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を2年あたり1人と設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	神戸大学大学院医学研究科
教育プログラム・コース名	がんプロフェッショナル養成プログラム（多職種・他分野・地域をつなぐ緩和医療専門医育成コース）
対象職種・分野	医学研究科医科学専攻大学院生（博士課程）
修業年限（期間）	4年
養成すべき人材像	疼痛などの苦痛症状の緩和に必要な専門治療（放射線治療、神経ブロック、IVRなど）の適応を適切に判断でき、地域における他職種・他分野と連携しながら、診断期から終末期およびサバイバー期にわたりがん患者の苦痛・ニードに地域全体として集学的に対応できる地域緩和ケアシステムの中核を担う人材を育成する。
修了要件・履修方法	専門科目24単位、共通科目6単位、合計30単位を履修し、博士論文を提出し、学位審査に合格すること。
履修科目等	<p>【専門科目】24単位</p> <p>○専攻する分野（先端緩和医療学）の授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先端緩和医療学特別研究Ⅰ（6単位）</li> <li>・先端緩和医療学特別研究Ⅱ（4単位）</li> <li>・先端緩和医療学演習（3単位）</li> <li>・先端緩和医療学臨床実習（2単位）</li> </ul> <p>○他の分野の授業科目（特別研究Ⅱ及び臨床実習を除く）から9単位</p> <p>【共通科目】6単位</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○腫瘍学Ⅰ 基盤講義（医療現場・学際領域）（必修）（2単位）</li> <li>○腫瘍学Ⅱ 横断講義（予防・研究開発）（必修）（2単位）</li> <li>○次世代がんプロフェッショナル養成特論（必修）（1単位）</li> <li>○医学研究先端講義（1単位）</li> <li>○その他大学院特別講義から1単位</li> </ul>
がんに関する専門資格との連携	緩和医療専門医（日本緩和医療学会）の研修施設として認定。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	緩和ケア病棟、緩和ケアコンサルテーション、在宅緩和ケア、すべてのセッティングでの臨床実践を通じて、専門的緩和医療を学習する。その中で、定期的に行う骨転移カンファレンス（整形外科、放射線腫瘍科、IVRと協働）やペインクリニックカンファレンス（麻酔科と協働）などを通じて、多様な症状緩和治療法に関する知識を得て適応判断する能力を身につける。また、緩和ケアコンサルテーションでは、診断・治療期のがん患者はもちろん、がんサバイバーのフォローも行い、疾患の時期によらずすべてのライフステージのがん患者へ対応を経験できる。さらに、地域における各種のセッティングを経験することにより、院内外の多職種とチーム医療を実践し、放射線治療や神経ブロックなどの高度専門的症狀緩和治療の地域におけるリソースを含めた地域緩和ケアネットワーク構築のイニシアティブを取れる人材を育成する。
指導体制	大学院の4年間で、緩和ケア病棟での入院診療、緩和ケアコンサルテーション（緩和ケア外来含む）、在宅緩和ケアを担い、診断・治療期から終末期、そしてサバイバーに至るすべてのライフステージのがん患者を対象に多職種協働・地域連携を重視するチーム医療を行う能力を、医学部附属病院、協力病院緩和ケア病棟・診療所における実習を通して修得する。各研修施設では日本緩和医療学会緩和医療専門医が指導にあたり緩和医療専門医を取得する。同時に、緩和医療に関する臨床研究を行い博士号を取得できるよう指導を行う。
修了者の進路・キャリアパス	緩和医療の専門的知識・技術に基づく臨床実践を行い、地域における緩和ケアネットワーク構築の中心的役割を担う。また、臨床研究を通じて、がん患者の生活の質向上に寄与する苦痛緩和治療の開発や教育指導による地域における緩和医療の啓発や次世代の緩和医療を担う人材育成を通じて、緩和医療の普及や医療・福祉の発展に寄与することが期待される。
受入開始時期	令和6年4月

受入目標人数	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
<small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	0	2	2	2	2	2	10
<b>受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠</b>	<p>県内の18つのがん拠点病院に緩和医療専門医を最低2人ずつ配置することを目標にすると、現在県内の緩和医療専門医数が26人のため今後5年間で10人養成する。また、過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度2人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を10人と設定。</p>						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	神戸大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	がんプロフェッショナル養成プログラム（次世代小児がん個別化治療医育成コース）						
対象職種・分野	医学研究科医科学専攻大学院生（博士課程）						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	乳児から思春期・若年成人に至る血液・腫瘍性疾患の診療を行い、遺伝子多型によるオーダーメイド治療法を開発する研究者。						
修了要件・履修方法	専門科目24単位、共通科目6単位、合計30単位を履修し、博士論文を提出し、学位審査に合格すること。						
履修科目等	<p>【専門科目】26単位</p> <p>○専攻する2つの分野の授業科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小児科学特別研究Ⅰ（6単位）</li> <li>・小児科学学特別研究Ⅱ（4単位）</li> <li>・小児科学演習（3単位）</li> <li>・腫瘍・血液内科学特別研究Ⅰ（6単位）</li> <li>・腫瘍・血液内科学特別研究Ⅱ（4単位）</li> <li>・腫瘍・血液内科学演習（3単位）</li> </ul> <p>【共通科目】6単位</p> <p>○共通基礎科目（2単位）</p> <p>○医学研究先端講義（1単位）</p> <p>○次世代がんプロフェッショナル養成特論（必修）（1単位）</p> <p>○その他大学院特別講義から2単位</p>						
がんに関する専門資格との連携	小児血液・がん専門医（日本小児血液・がん学会）および血液専門医（日本血液学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	西日本最多の症例数を持つ小児がん拠点病院である兵庫県立こども病院と、がんゲノム拠点病院である当院が連携し実習と職種横断的演習を行うことで、小児がんに対する標準的な治療について学ぶと共に、小児がん患者の持つ遺伝子多型に応じた、がんゲノムプロファイリング検査を基にした個別化医療についても学ぶことが出来る。更に、臨床研究中核病院の強みを生かし、新たな個別化医療の臨床研究開発に関わることが出来る。						
指導体制	小児がんに対する個別化医療については、がんゲノムプロファイリング検査結果を協議するエキスパートパネルなどを通じて、オーダーメイド治療についての研究指導を行う。小児がんは手術治療、薬物療法（抗がん剤治療）、放射線治療、造血幹細胞移植、支持療法などを組み合わせた集学的治療を要する疾患である。従って、実際の治療においては、安全で有効な化学療法を外来で実施するために外来化学療法室、適切ながん化学療法を実施するためのレジメン審査を行うがん薬物療法審査委員会、一人のがん患者さんの治療方針を他診療科および兵庫県立こども病院も交えて決定するTumor Boardなどを通じて多職種が実習にコミットし、研究指導を行う。						
修了者の進路・キャリアパス	全ての小児がん患者に対して世界標準かつ優しく温かい医療を提供するとともに、臨床研究を推進し、個々の患者に応じた個別化治療の開発などを通じて、わが国の小児がん診療をリードする人材。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1	1	1	1	1	5
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	都道府県内の3つの小児がん診療病院に小児血液・がん専門医を最低5人ずつ配置することを目標にすると、3病院に勤務する都道府県内の小児血液・がん専門医数が10人のため今後5年間で5人養成する。また、過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度1-2人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を1人と設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	神戸大学大学院医学研究科
教育プログラム・コース名	次世代のがん放射線治療医学物理士養成コース
対象職種・分野	医学研究科バイオメディカルサイエンス専攻大学院生（修士課程）
修業年限（期間）	2年
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放射線治療に関わる品質管理、治療計画に責任を持ち、物理工学と医学を架橋する「医学物理分野」に精通し、がん治療を中心とした医療の現場で活躍する人材を養成する。</li> <li>・放射線治療医と協力し、放射線治療の普及、均てん化、質的向上、教育に関して指導的役割を担う人材を養成する。</li> <li>・機器開発や新たな照射法の開発など、放射線治療の発展に寄与する開発マインドもった人材を養成する。</li> </ul>
修了要件・履修方法	修士課程に2年以上在学し、必修24単位、選択必修6単位、計30単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げたものと認めた場合は、1年以上在学すれば足りるものとする。
履修科目等	<p>【必修】24単位</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○腫瘍学Ⅰ 基盤講義（医療現場・学際領域）（必修）（2単位）</li> <li>○腫瘍学Ⅱ 横断講義（予防・研究開発）（必修）（2単位）</li> <li>○放射線治療計画基本演習（3単位）</li> <li>○バイオメディカルサイエンス特別研究（10単位）</li> </ul> <p>【選択必修】13単位</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>バイオメディカルサイエンスA（2単位）、バイオメディカルサイエンスB（2単位）</li> <li>基礎解剖学（2単位） 原子物理学（2単位）、放射線物理学（2単位）、統計学（1単位）</li> <li>保健物理学（2単位）、放射線診断物理学（2単位）、放射線治療物理学（2単位）</li> <li>放射線計測学（2単位）、情報処理学（1単位）、医療情報学（1単位）</li> <li>放射線診断学（1単位）、放射線生物学（2単位）</li> <li>放射線関連法規及び勧告（1単位）、科学英語（1単位）</li> <li>放射線治療計画臨床研究（3単位）</li> </ul>
がんに関する専門資格との連携	医学物理士認定機構の『認定医学物理教育コース』として認定。
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・兵庫県立粒子線医療センター（陽子線と炭素イオン線を使用できる世界初の施設）や神戸陽子線センター（兵庫県立こども病院に隣接し、小児がんに重点を置いた陽子線治療施設）、兵庫県立がんセンター（都道府県がん診療連携拠点病院）と連携し、最先端の高精度放射線治療、画像誘導小線源治療、粒子線治療等の多様な放射線治療に関する実習を実施する。</li> <li>・キャンサーボードを活用し、肉腫、小児腫瘍などの希少がんに対する特殊な放射線治療や、緩和医療における放射線治療についても精通した医学物理士を養成する。</li> </ul>
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・兵庫県立粒子線医療センターや神戸陽子線センターとも連携し、臓器横断的な総合がん治療医の素養を持った放射線治療医を中心に、病院全体での臨床現場を体験できる指導体制をとる。</li> <li>・神戸大学理学研究科や神戸大学工学研究科等とも協力し、物理工学に関する知識・技能を修得させる。兵庫県立大学等との医工連携セミナーにも参画してもらう。</li> <li>・医学物理士の資格を有する複数の指導医に加え、博士課程学生にも修士課程学生の演習・実習に参画させ、医学物理のスペシャリストを育成する。</li> </ul>
修了者の進路・キャリアパス	博士課程への進学や、医学物理士の認定試験の受験、認定医学物理士に必要なとされる臨床実習を通じて、将来臨床の現場で活躍する医学物理士の育成を目指す。
受入開始時期	令和6年4月

受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1	1	1	1	1	5
<b>受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠</b>	<p>県内の関連放射線治療施設（がん診療連携拠点病院）に最低1名の医学物理士を配置することを目標にすると、5名が不足しており、今後5年間で5名養成する必要がある。過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度1人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を5人と設定。</p>						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	神戸大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	次世代がんリハビリテーションのための人材育成コース						
対象職種・分野	医学研究科バイオメディカルサイエンス専攻大学院生（修士課程）						
修業年限（期間）	2年						
養成すべき人材像	がん患者に対して最新のエビデンスに基づいた適切ながんリハビリテーション治療を指導的な立場で実践できるとともに、まだ不足してるエビデンスの構築にむけて基礎研究、臨床研究を計画し遂行できるリハビリテーションセラピストを養成する。						
修了要件・履修方法	修士課程に2年以上在学し、必修24単位、選択必修6単位、計30単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げたものと認めた場合は、1年以上在学すれば足りるものとする。						
履修科目等	必修 24単位 腫瘍学Ⅰ 基盤講義（医療現場・学際領域）2単位 腫瘍学Ⅱ 横断講義（予防・研究開発）2単位 バイオメディカルサイエンス特別研究 10単位 リハビリテーション医学 2単位 がんリハビリテーション学 2単位 がんリハビリテーション演習 6単位 選択必修 6単位以上 バイオメディカルサイエンスA 2単位、バイオメディカルサイエンスB 2単位 薬物治療学特論 2単位 基礎解剖学 2単位、統計学 1単位、科学英語 1単位 臨床腫瘍学 2単位、緩和医療学 2単位、放射線腫瘍学 2単位						
がんに関する専門資格との連携	がん患者リハビリテーション料算定施設 がんのリハビリテーション研修企画者研修修了施設						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	関西地区のがんリハビリテーション診療のトップランナーである神戸大学医学部附属病院や神戸大学医学部附属病院国際がん医療・研究センターでの演習や実習を中心とし、先進的ながんリハビリテーション診療の実践と臨床研究を行うとともに医学研究科、保健学研究科と連携した基礎研究も実践可能である。						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>神戸大学大学院医学研究科リハビリテーション機能回復学の協力の元、多くのがんリハビリテーション治療のエビデンス構築を行っている神戸大学医学部附属病院リハビリテーション部、科の医師、博士号を持つセラピストとともに、最先端のがんリハビリテーション診療の実践と臨床研究を行う。</li> <li>神戸大学大学院医学研究科、保健学研究科と連携し、基礎研究を含めた総合的ながんリハビリテーション診療のエビデンス構築を目指す。</li> </ul>						
修了者の進路・キャリアパス	博士課程への進学や、兵庫県内外のがん診療拠点病院等のリハビリテーション部における指導者的立場、リハビリテーションセラピストの教育施設への就職など						
受入開始時期	令和7年4月						
受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	0	2	2	2	2	8
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	保健学研究科博士課程前期課程の志願者数は毎年120名前後であり、60名の合格者がある。4専攻のうち2専攻（理学療法学、作業療法学）が当課程の対象であり、希望者の中で30名は進学できない現状である。そのなかでがんリハビリテーションを研究する人材は最低でも年間2名以上は存在すると推定される。						



## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	神戸大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	腫瘍循環器人材育成インテンシブコース（インテンシブ）						
対象職種・分野	近畿圏でがん診療もしくは循環器診療に携わっている医師						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	がん治療に関連して発生する様々な循環器系の疾患（特にがん治療関連心筋障害、がん関連血栓症、不整脈）の病態を理解し、早期発見、早期治療介入が可能な院内体制を構築し、がん専門医と協力して腫瘍循環器領域の主導的役割を果たせる専門医を養成する。						
修了要件・履修方法	講義90時間、実習160時間（4週） （ただし、実習については最大1年間のうちに、96時間以上の出席で修了認定）						
履修科目等	腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）（2単位） 腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）（2単位） 実習 160時間（希望者のみ）						
がんに関する専門資格との連携	循環器専門医（日本循環器学会）、がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）、血液専門医（日本血液学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	通常の博士課程、修士課程とは別に近畿圏でがん診療ならびに循環器診療に携わっている医師を対象に、腫瘍循環器領域に必要な臨床腫瘍学、放射線腫瘍学、臨床遺伝学、循環器内科学の体系的な教育の機会を提供し、腫瘍循環器領域に関する最新の知識と技能の地域への均てん化とレベルアップをめざす。博士課程と同じ腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）・腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）を履修し、大学病院あるいは連携病院において、がん薬物療法の実習を4週間実施する。修了者には、腫瘍循環器人材育成コース/腫瘍循環器インテンシブコース（インテンシブ）のコース修了証を授与する。						
指導体制	臨床実習において、多職種連携の現場を体験し、チームの一員として活動させる。						
修了者の進路・キャリアパス	地域（主に兵庫県）における腫瘍循環器学の普及、均てん化、質的向上が第一に期待される。がん治療に関連する多職種との相互協調、相互理解を促進する。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	2	2	2	2	2	10
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	兵庫県内のがん診療連携協議会において準拠点病院以上に指定されている病院は46病院が、そのうちがんゲノム医療拠点病院が3病院、連携病院が5病院ある。これに対して腫瘍循環器学に精通した医師が複数名配置できれば、兵庫県下の他の病院はこれらの病院と連携することにより、レベルの高いがん治療が可能となると思われる。毎年度2人を輩出できれば腫瘍循環器学の普及が期待できる。また教育の質を落とさないためにも毎年2名が妥当と考え、受入れ目標人数を合計10人と設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	神戸大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	オンデマンドセミナーを活用した個別化腫瘍・血液治療インテンシブコース（インテンシブ）						
対象職種・分野	近畿圏その他でがん診療に携わっている医師						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	固形がんおよび造血器腫瘍に対し臓器横断的に標準的ながん薬物療法や、腫瘍の遺伝子異常や臨床薬理学的知見に基づいた治療の個別化、遺伝性腫瘍の診療に対応でき、施設全体のがん薬物療法推進と安全管理にコーディネーターとして主導的役割を果たせる人材を養成する。						
修了要件・履修方法	日本臨床腫瘍学会・日本血液学会のオンデマンドセミナーを活用した講義（20時間） 診断・治療の実践的症例検討（症例検討4時間） 腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）（2単位） 腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）（2単位） 実習 160時間（希望者のみ）						
履修科目等	日本臨床腫瘍学会・日本血液学会のオンデマンドセミナーを活用した講義（20時間） 診断・治療の実践的症例検討（症例検討4時間） 腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）（希望者、R5年度は共通特論Ⅰ） 腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）（希望者、R5年度は共通特論Ⅰ・Ⅱ） 実習 160時間（希望者のみ）						
がんに関する専門資格との連携	がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）・血液専門医（日本血液学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	通常の博士課程、修士課程とは別に近畿圏等のがん診療に携わっている医師を対象に、がん診療およびゲノムに基づく個別化医療に必要な臨床腫瘍学・血液内科学の体系的な教育の機会を提供し、最新の知識と技能の地域への均てん化とレベルアップをめざす。日本臨床腫瘍学会および日本血液学会が提供するWebベースの教育セミナー等を利用し、単に聴講するのではなく専門医を中心として講師陣の独自の解説・講義により理解を深める。現実の医療では、重複癌、合併症、既往・治療歴などにより教科書的知識だけでは対応できない症例も多い。重複例や臓器障害例など実際の患者を用いて症例検討を行い、実践的応用力を養成する。希望者には博士課程と同じ腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）・腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）を履修させ、大学病院あるいは連携病院においてがん薬物療法の実習を4週間実施する。修了者には、がん専門医師研修（インテンシブ）コース修了証を授与する。						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>各固形がんおよび造血器腫瘍の専門医がそろっており、オンデマンドセミナーの補足説明、詳細な解説が可能である。</li> <li>臨床実習では、多職種連携の現場を体験しチームの一員として活動させる。</li> </ul>						
修了者の進路・キャリアパス	兵庫県を中心に各地域におけるがん薬物療法およびその個別化の普及・均てん化、質の向上が期待される。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		3	3	3	3	3	15
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	兵庫県内のがん診療連携協議会において準拠点病院以上に指定されている病院は46病院あり、一方、がん薬物療法専門医は64名存在するが偏在が認められる。そのため、専門医が不在の病院に専門的知識を有する医師を配置するには、30名程度の養成が必要と思われる。兵庫県には本プロジェクトに参加する医学部が他にもあり、過去の大学院志願者数等より毎年度3人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を合計15人と設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	神戸大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	がんゲノム医療インテンシブコース（インテンシブ）						
対象職種・分野	近畿圏その他でがん診療に携わっている医師						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	固形がんの薬物療法においてがんゲノムパネル検査に基づいて腫瘍の遺伝子変異の意義を理解し個別化治療を実施でき、各全体でがんゲノム医療を推進・コーディネートに主導的役割を果たせる人材を養成する。						
修了要件・履修方法	がんの基礎から臨床までをカバーする腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）・腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）の受講に加えて、がんゲノムパネル検査に関する録画・オンデマンド講義を受講し、エキスパートパネルにおいて実習を行う。						
履修科目等	腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）（希望者、R5年度は共通特論Ⅰ） 腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）（希望者、R5年度は共通特論Ⅱ） がんゲノム医療拠点病院である神戸大学医学部附属病院で開催するエキスパートパネルの準備およびパネルでの実習（2時間 x 12）						
がんに関する専門資格との連携	がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）・血液専門医（日本血液学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	通常の博士課程、修士課程とは別に近畿圏等でがん診療に携わっている医師を対象に、腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）・腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）の受講によりすべてのがんの基礎から臨床までを教育する。さらに、がんゲノム医療の基本及び概略を学習するための講義を新たに録画し、がんゲノムパネル検査についての。実際のがんゲノム外来、がんゲノムパネル検査の準備・出検、結果を議論するエキスパートパネルおよびその準備を経験する。特定の臓器のがんばかりでなくあらゆる固形がんの、実際のがんゲノム外来、がんゲノムパネル検査、エキスパートパネルを体験することにより幅広く理解を深めることが可能となる。近い将来に造血器腫瘍に対するパネル検査が実装されるが、体制が整った後に同様の教育機会を拡大する。修了者には、がん専門医師研修（インテンシブ）コース修了証を授与する。						
指導体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がんゲノム医療を習得した複数のがん薬物療法専門医ががんゲノム耐雷、がんゲノムパネル検査、エキスパートパネルを実施しており、詳細な教育が可能である。</li> <li>・外来、検査、エキスパートパネルでの臨床実習の前に、がんゲノム医療に関する資料を利用することにより教育効果を高める。</li> </ul>						
修了者の進路・キャリアパス	兵庫県を中心に各地域におけるがんゲノムパネル検査に基づく個別化医療の普及・均てん化、質の向上が期待される。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	2	2	2	2	2	10
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	兵庫県内のがん診療連携協議会において準拠点病院以上に指定されている病院は46病院が、そのうちがんゲノム医療拠点病院が3病院、連携病院が5病院ある。これにがんゲノム医療に精通した医師が複数名配置できれば、兵庫県下の他の病院はこれらの病院と連携することにより、がんゲノム医療が可能となると思われる。毎年度2人を輩出できればがんゲノム医療の普及が期待できる。また教育の質を落とさないためにも毎年2名が妥当と考え、受入れ目標人数を合計10人と設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	神戸大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	がん薬物療法の臨床研究・開発を支援する人材育成インテンシブコース（インテンシブ）						
対象職種・分野	近畿圏でがん診療や、臨床試験・研究に携わっている薬剤師、CRC、その他医療関係者						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	がん薬物療法に関わる臨床研究や治験を支援するCRCやデータマネージャー、あるいはがんに関わる臨床研究を立案できる研究者を養成する。						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義（20時間以上となるよう以下から選択） がん薬物療法の臨床研究・開発を支援する人材育成インテンシブコース講義（必須）、 次世代がんプロフェッショナル養成特論、腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）、 腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）、臨床研究推進セミナー</li> <li>・実習（いずれか1回以上） 薬剤部研究検討会への参加 臨床研究推進センター・プロトコルレビュー見学 治験スタートアップミーティング見学</li> </ul>						
履修科目等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○がん薬物療法の臨床研究・開発を支援する人材育成インテンシブコース講義（必須）と演習</li> <li>○次世代がんプロフェッショナル養成特論</li> <li>○腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）</li> <li>○腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）</li> <li>○臨床研究推進セミナー</li> </ul>						
がんに関する専門資格との連携	がん専門薬剤師（日本医療薬学会、日本病院薬剤師会、日本臨床腫瘍薬学会）、地域薬学ケア専門薬剤師（日本医療薬学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	臨床研究中核病院に令和3年4月に承認されており、臨床研究推進センターにはCRCやデータマネージャー、生物統計家の人材も豊富である。また、薬剤部にはがん専門薬剤師や薬物動態の専門家も多く所属していることから、質の高いがん薬物療法に関わる臨床試験・研究について教育できる体制が整っている。						
指導体制	次世代がんプロフェッショナル養成プログラム担当教職員を初め、神戸大学医学部附属病院薬剤部教職員や臨床研究推進センター所属の教職員等、院内外の関連職種が幅広く連携して指導にあたる。						
修了者の進路・キャリアパス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん薬物療法に関する臨床試験や研究を支援できる医療者</li> <li>・がんに関わる臨床研究を実践できる医療者</li> </ul>						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	5	5	5	5	5	25
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	兵庫県に25のがん診療連携拠点病院があり、大阪府に19の国指定のがん関連の拠点病院がある。各がん拠点病院の1/4に最低1人ずつがん薬物治療に関する臨床試験・研究を支援できるCRCを配置することを目標にすると、総数11人となり今後5年間で養成する。また、過去の神戸大学の薬剤師レジデントと大学院志願者数及び研修施設としての受け入れ者数から毎年度約3人の志願者が見込まれるため、合計受入目標人数を25人と設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	神戸大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	がん放射線療法インテンシブコース（インテンシブ）						
対象職種・分野	近畿圏でがん診療に携わっている医療関係者						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	放射線療法に関連する医師・診療放射線技師・看護師等の幅広い医療職を対象とし、小児・AYA世代～高齢者まで各々の患者に対して最適な放射線治療（根治的放射線治療、緩和的放射線治療）に精通する人材を養成する。 多職種連携による集学的な痛みの治療の中で、緩和的放射線治療の適応を適切に提案できる人材を養成する。						
修了要件・履修方法	実習40時間（4週間） 実際の症例を用いた症例検討（症例検討会1時間×4回以上） 腫瘍学Ⅰ基礎講義（医療現場・学際領域）、腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）（希望者）（24時間以上の実習出席をもって修了認定とする）						
履修科目等	腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域） 2単位 腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発） 2単位 実習 40時間以上 がん放射線療法に関する実践的症例検討（4時間以上）						
がんに関する専門資格との連携	放射線治療専門医（日本医学放射線学会・日本放射線腫瘍学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	近畿圏でがん診療に携わっている医師を対象に、がん診療に必要な臨床腫瘍学、放射線腫瘍学の最新の知識と技能の修得を目的とする。 腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）・腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）を履修し、大学病院あるいは連携病院において、放射線腫瘍学の実習を4週間実施する。修了者には、がん専門医師研修（インテンシブ）コース修了証を授与する。						
指導体制	高い専門性を持つ放射線治療スタッフ（放射線治療専門医、医学物理士等）、および関連診療科の専門医による指導体制が準備されている。粒子線治療施設（兵庫県立粒子線医療センターや神戸陽子線センター）や都道府県がん拠点病院（兵庫県立がんセンター）との教育連携を行う。 がん治療に関連する多職種の現場を体験し、相互協調、相互理解を促進する。						
修了者の進路・キャリアパス	本コース終了後は、所属先施設の地域において、放射線治療の普及、均てん化、質的向上、教育に関して指導的役割を担う人材となることを期待する。また、本大学大学院修士や博士課程に進学し、さらに研鑽を積むきっかけとなることも期待している。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1	1	1	1	1	5
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	過去のニーズ調査から毎年度1人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を6人と設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	神戸大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	地域を志向する緩和ケア人材育成インテンシブコース（インテンシブ）						
対象職種・分野	近畿圏でがん診療に携わっている医師および医療介護福祉従事者						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	緩和ケア領域の最新の治療とケアに精通し、地域の様々なライフステージの患者とその家族に対して適切なケアの提供を地域の医療者と連携して対応できる人材を養成する。						
修了要件・履修方法	講義10時間以上（以下から選択） 次世代がんプロフェッショナル養成特論、腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）、 腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発） 実習20時間以上（1週） ただし、実習については最大2年間のうちに、20時間以上の出席で修了認定します。						
履修科目等	講義：腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域） 腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発） 神戸大学 先端緩和医療学分野 緩和ケア講義 実習：5大学の大学病院及びその関連教育実習施設の緩和ケア病棟、緩和ケアチーム、在宅緩和ケアを提供する診療所、訪問看護ステーション等で実習を行う。						
がんに関する専門資格との連携	日本緩和医療学会 緩和医療専門医研修施設および連携施設として認定						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	小児・AYA世代から高齢者まで、診断・治療期から終末期およびがんサバイバーに至る幅広いがん患者を対象とした専門的緩和ケアに関する講義を、5大学各々がその特色を活かして、協力し合って年間カリキュラムを作成し提供する。緩和ケアチーム、緩和ケア病棟、在宅緩和ケアでの実習を通じて、多職種でのチーム医療と地域緩和ケアネットワークの役割・重要性を経験できることが特色である。また、実習中に骨転移カンファレンスやペインクリニックカンファレンスに参加する機会を提供し、高度専門的症候緩和治療の重要性に触れられることも特色である。修了者には、がん緩和医療研修（インテンシブ）コース修了証を授与する。						
指導体制	神戸大学緩和支援治療科を中心に、近畿大学、大阪公立大学、兵庫医科大学、関西医科大学の緩和ケアチーム（緩和医療専門医、がん専門看護師、がん緩和ケアに関わる認定看護師）並びに関連の緩和ケア病棟・診療所において多職種で教育にあたる。						
修了者の進路・キャリアパス	所属施設内における緩和ケア提供・啓蒙の中心を担ったり、地域における緩和ケアネットワークの一翼を担う。さらに専門的な知識・技術を得たい場合には専門資格（緩和医療専門医、がん看護専門看護師 など）の養成研修や大学院に入学し緩和ケア分野の臨床研究を行う。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	5	5	5	5	5	25
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	過去の短期研修受け入れ実績と各研修施設の受け入れ可能人数から毎年度5人の志願者が見込まれるため、受け入れ目標人数を25人と設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	神戸大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	がんリハビリテーションインテンシブコース（インテンシブ）						
対象職種・分野	がんリハビリテーションに興味のあるリハビリテーション専門職（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	がんの発症予防からがん治療前・中・後、緩和ケアまでシームレスにがん患者に対してリハビリテーション治療を実践するための知識・技能を習得し、実臨床において、エビデンスに基づいたリハビリテーション治療が実践でき、かつ現場スタッフに対して指導的な役割を担える人材を養成する。						
修了要件・履修方法	講義102時間、実習24時間（3日間）（英文抄読会での発表を含む） 講義：レポートの提出により、臨床腫瘍学およびがんのリハビリテーションの基礎知識の学習が十分であるかを評価する。また、がんリハビリテーションに関する研究計画書を作成し、提出する。 実習：施設見学成果についてのレポートを提出する（症例発表レポートの提出にて読み替え可）。修了者には、修了証を授与。						
履修科目等	腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）（2単位） 腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）（2単位） ■がんリハビリテーション講義 6回 開講 [実習]1. リハビリテーション計画法、評価法、治療法、リスク管理（主に化学療法・造血幹細胞移植、食道癌・頭頸部癌・乳癌の周術期、緩和ケアチーム、摂食・嚥下におけるリハビリテーションの見学実習）。2. 腫瘍・血液内科、食道胃腸外科、耳鼻咽喉科頭頸部外科、乳腺内分泌外科、緩和ケアチームなど関連診療科のカンファレンスにおける治療方針の決定過程、チーム医療の実習。						
がんに関する専門資格との連携	がんのリハビリテーション研修企画者研修修了施設						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	関西地区のがんリハビリテーション診療のトップランナーである神戸大学医学部附属病院や神戸大学医学部附属病院国際がん医療・研究センターにおいて、あらゆる病期のがん患者に対するシームレスなリハビリテーション治療を実践する際に必要な最新の知識・技能を習得するとともに、実習を通して多職種連携の重要性を学習できる。また、がんリハビリテーション治療のエビデンス構築のための臨床研究法を学習できる。						
指導体制	・神戸大学医学部附属病院および神戸大学医学部附属病院国際がん医療・研究センターのがん治療医、がん専門看護師、臨床心理士、医療ソーシャルワーカー、リハビリテーションセラピスト等の多職種医療チームにおける実習を通じて、がん治療やリハビリテーション治療の治療戦略の決定プロセスを学ぶ。 ・神戸大学大学院医学研究科リハビリテーション機能回復学および保健学研究科の協力を得て、リハビリテーション科医及び附属病院理学療法士等による密接した研究指導を行う。						
修了者の進路・キャリアパス	がんの発症予防から緩和ケアまでシームレスにリハビリテーション治療を実践できる知識・技能を習得し、がん診療拠点病院をはじめ地域医療においても指導的立場を担うことのできるリハビリテーションセラピストを目指す。また、修士課程へ進学しがんリハビリテーション治療のエビデンスの構築のための臨床研究の実践を目指す。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	8	8	8	8	8	40

受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠

兵庫県内のがん診療拠点病院26施設にがんリハビリテーション治療の指導的立場を担うリハビリテーションセラピストを各施設1～2名配置することを目標にすると、今後5年間で40名養成する必要がある。また、過去のインテンシブコース受け入れ実績が毎年度8～10名あり、受け入れ目標人数を8名と設定した。



## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	神戸大学大学院保健学研究科						
教育プログラム・コース名	がんプロフェッショナル養成プログラム（がん看護学）						
対象職種・分野	保健学研究科博士前期課程・博士後期課程に在籍し、看護師免許を有する大学院生						
修業年限（期間）	2年（博士前期課程大学院生）または3年（博士後期課程大学院生）						
養成すべき人材像	がん看護に携わる看護師として、小児期、AYA期、壮年期、老年期などのライフステージに応じて、医療機関・地域などのあらゆる場をシームレスに捉え、治療中から治療後のフォローアップにわたる、がん患者・がんサバイバーへの高度看護支援やその看護を開発する研究手法を学び、がん患者とその家族のウェルビーイングやQOLの向上に貢献できる人材を養成する。						
修了要件・履修方法	必要な単位を履修し、修士論文または博士論文を提出し、学位審査に合格すること。						
履修科目等	<p>【博士前期課程】専門科目 22単位以上（指定される専門科目 14単位以上（特講又はCNS専門科目から2単位以上、演習2単位以上、特別研究10単位）、生活習慣病・予防治療学特講 2単位、地域保健実践学特講 2単位、その他保健学研究科・医学研究科で開講される科目 4単位以上）、共通科目 8単位以上（メディカルデータサイエンス特講を含む保健学研究科博士前期課程共通科目 4単位以上、腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）・腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）4単位）</p> <p>【博士後期課程】専門科目 10単位以上（指定される専門科目 8単位以上（特講2単位以上、演習2単位以上、特別研究4単位）、その他、保健学研究科・医学研究科で開講される科目 2単位以上）、共通科目 6単位以上（メディカルデータサイエンス特講を含む保健学研究科博士後期課程共通科目 2単位以上、腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）・腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）（各2単位）</p>						
がんに関する専門資格との連携	がん看護専門看護師（日本看護系大学協議会）の教育施設として認定						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	ライフステージに応じたがん看護、医療機関から地域へのトランジションを踏まえたがん看護を提供できることを目指し、また看護学・保健学における多様な研究手法を学ぶことができる内容である。保健学研究科の特色を活かし、がん医療における看護学領域、病態解析学領域、リハビリテーション科学領域、パブリックヘルス領域、さらに神戸大学医学部附属病院との連携を通じて、チーム医療を学修できるよう工夫している。						
指導体制	小児がん看護や成人がん看護を専門とする教員を中心に、看護学領域、病態解析学領域、リハビリテーション科学領域、パブリックヘルス領域の教員が連携し、多職種連携・チーム医療を踏まえた指導を行う。またプログラムの内容を効果的に学修できるように個別指導も組み込み実施する。神戸大学医学部附属病院のがん看護専門看護師、緩和ケア認定看護師などから、具体的な事例を交えるなど実務上の視点を取り入れた指導を実施する。						
修了者の進路・キャリアパス	本プログラムの修了後、がん看護の専門性を有した看護師として、医療機関や訪問看護ステーションなどで、ライフステージや看護実践を行う場に関わらず、がん患者・がんサバイバーやその家族に対する看護を提供し、またチームとしての看護実践を向上するリーダーとして活躍することが期待される。さらに、研究者としてがん看護に関する研究を推進し、がん看護の質を改善すること、また大学教員としてがん看護に携わる人材育成を担うことも期待される。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7 年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1	1	1	1	1	5

受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠

過去の神戸大学大学院保健学研究科博士前期課程・博士後期課程の志願者数のうちがん看護学を専攻する学生数およびニーズ調査から毎年度1人程度の志願者が見込まれるため、博士前期課程・博士後期課程での受け入れ目標人数を計5人と設定。

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	関西医科大学大学院医学研究科（博士課程）						
教育プログラム・コース名	地域がん医療課題克服型腫瘍学コース（正規課程）						
対象職種・分野	医学研究科博士課程大学院生（医師、看護師等）						
修業年限（期間）	4年（ただし、長期履修制度を利用する学生は5年）						
養成すべき人材像	がんの分子生物学・診断・治療にわたる基礎知識・技能を習得し、地域基幹病院において外科治療、放射線治療、薬物療法、緩和ケアによる集学的治療を實踐でき、地域のがん医療における様々な課題を克服できる人材を養成する。 また、がん患者の心理的ケアやリハビリテーションなど非薬物療法的なアプローチも可能な人材も養成し、幅広い視野をもつがん専門医療人を養成する。						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として4年以上在学すること</li> <li>・コースワーク4単位、リサーチワーク26単位以上の計30単位以上を修得し、必要な研究指導を受けたうえ博士論文を提出し、博士論文の審査及び試験に合格すること</li> </ul>						
履修科目等	<p>【コースワーク】必修コース（腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）、腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）を含む）、選択必修コース</p> <p>【リサーチワーク】講義、演習、実験・実習、研究・論文作成指導</p>						
がんに関する専門資格との連携	日本臨床腫瘍学会薬物療法専門医、日本癌治療学会認定医						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	本コースでは、地域に根ざしたがん医療を實踐できるがん医療人を養成する。特に地域では高齢者のがん患者も多く、高齢者に対する外科治療、放射線治療、薬物療法を安全にかつ効果的に行なうことに課題を置く診療・研究やがん患者の心理的なケアや緩和ケアの充実、リハビリテーション、食事療法、運動療法といった非薬物療法的な診療、研究にも重きを置く。もちろん、各癌腫の標準的治療確立のための臨床研究、ゲノム医療にも力を入れていく。						
指導体制	<p>【コースワーク】該当科目担当教員、腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）・腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）は関連5大学の講義担当教員</p> <p>【リサーチワーク】呼吸器腫瘍内科学講座、内科学第一講座、外科学講座、放射線科学講座、心療内科学講座などに所属する各大学院教員が担う</p>						
修了者の進路・キャリアパス	本学附属病院および地域の関連病院において、がん患者に対する集学的治療、個別化医療に対応可能ながん専門医療人として、地域医療の促進及び後進の育成、さまざまな課題克服に努める。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1	2	2	2	2	9

受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	今回のコースを担当する講座は新たな教授が就任したばかりの講座が多いため、大学院生の受入体制を整えるために2年は要すると判断し、令和6年は1名、それ以降は2名ずつとした。
-------------------------	--

【様式2】

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	関西医科大学大学院医学研究科（博士課程）						
教育プログラム・コース名	高精度個別化放射線腫瘍学コース（正規課程）						
対象職種・分野	医学研究科博士課程大学院生（医師等）						
修業年限（期間）	4年（ただし、長期履修制度を利用する学生は5年）						
養成すべき人材像	放射線治療は、専用CT撮影から始まり照射終了まで、フルデジタルで治療が完結する特性上、今後AIを活用した更なる治療の高精度化・個別化が見込まれている。第3期までで培ってきたがん専門医療人養成の実践に加え、次世代の放射線治療に対応した専門医を養成する。						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として4年以上在学すること</li> <li>・コースワーク4単位、リサーチワーク26単位以上の計30単位以上を修得し、必要な研究指導を受けたうえ博士論文を提出し、博士論文の審査及び試験に合格すること</li> </ul>						
履修科目等	<p>【コースワーク】必修コース（腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）、腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）を含む）、選択必修コース</p> <p>【リサーチワーク】講義、演習、実験・実習、研究・論文作成指導</p>						
がんに関する専門資格との連携	放射線治療専門医						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	外部放射線治療においては、AI支援による高精度化・個別化した放射線治療を、放射線治療専門医および医学物理士から学ぶことができる。小線源治療においては、独自の組織内照射技術により、全国から紹介される多くの症例を経験できる。						
指導体制	<p>【コースワーク】該当科目担当教員、腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）・腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）は関連5大学の講義担当教員</p> <p>【リサーチワーク】内科学第一講座、小児科学講座、外科学講座、脳神経外科学講座、産科学・婦人科学講座、放射線科学講座などに所属する各大学院教員が担当</p>						
修了者の進路・キャリアパス	本学附属病院、及び地域の関連病院において、高精度化・個別化した放射線治療に対応可能な放射線治療専門医として、地域医療の促進及び後進の育成に努める。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1	0	1	0	1	3
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	第3期までで2人の大学院生を受け入れたことを踏まえつつ、今期は1人増加した受け入れを目指す。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	関西医科大学大学院医学研究科（博士課程）						
教育プログラム・コース名	特定集団特化型がん緩和医療コース（正規課程）						
対象職種・分野	医学研究科博士課程大学院生（医師、看護師、臨床心理士等）						
修業年限（期間）	4年（ただし、長期履修制度を利用する学生は5年）						
養成すべき人材像	がんサバイバー、家族介護者、遺族といった特定集団に対する治療・ケアを集学的に取り組む人材						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として4年以上在学すること</li> <li>・コースワーク4単位、リサーチワーク26単位以上の計30単位以上を修得し、必要な研究指導を受けたうえ博士論文を提出し、博士論文の審査及び試験に合格すること</li> </ul>						
履修科目等	<p>【コースワーク】必修コース（腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）、腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）を含む）、選択必修コース</p> <p>【リサーチワーク】講義、演習、実験・実習、研究・論文作成指導</p>						
がんに関する専門資格との連携	緩和医療専門医（日本緩和医療学会）						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がん治療と緩和医療の各センターを併設した施設に配属されることにより、がん患者のみならず、がんサバイバー、家族介護者、遺族といった特定集団に適切ながん医療を提供すべく対応方法を体験することができる。緩和ケアセンターでは、心療内科、痛みセンター、健康科学センターとも連携しており、特定集団に対する治療・ケアを集学的に習得できる。特に臨床心理士等と医心連携が整っており、特定の集団に対する早期からの専門的緩和ケアの教育として身体症状・心理特性の調査、集団心理療法等の治療・ケア等を経験し、現在実施している研究を学びながら自身の研究をまとめていくことが可能である。						
指導体制	<p>【コースワーク】該当科目担当教員、腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）・腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）は関連5大学の講義担当教員</p> <p>【リサーチワーク】内科学第一講座、小児科学講座、外科学講座、脳神経外科学講座、産科学・婦人科学講座、放射線科学講座、病理学講座、心療内科学講座に所属する各大学院教員が担う。</p>						
修了者の進路・キャリアパス	本学附属病院、及び地域の関連病院において、がんサバイバーに対するケアを担うがん専門医療人として、地域医療の促進及び後進の育成に努める。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1	1	1	1	1	5
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	関係講座における過去の大学院生の受入実績をもとに設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	関西医科大学大学院医学研究科（博士課程）						
教育プログラム・コース名	新規治療法開発を目指す人材育成のための創薬研究コース（正規課程）						
対象職種・分野	医学研究科博士課程大学院生（医師、医学系研究者等）						
修業年限（期間）	4年（ただし、長期履修制度を利用する学生は5年）						
養成すべき人材像	腫瘍形成・進展・悪性化に関わるがん生物学の基礎知識・研究技能を習得し、新規治療法の開発や創薬研究が遂行できる医療者の養成を目指す。がん細胞における遺伝子の転写・翻訳制御機序の解明、micro RNAやlong non-coding RNA (lnc RNA) に着目した疾患特異的バイオマーカーの探索、がん細胞特異的に発現する膜タンパク質のモノクローナル抗体作製、がんオルガノイド作製技術を学ぶ。これらの知識を基に、新たな診断・治療法を開発できる次世代を担う人材を養成する。						
修了要件・履修方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として4年以上在学すること</li> <li>・コースワーク4単位、リサーチワーク26単位以上の計30単位以上を修得し、必要な研究指導を受けたうえ博士論文を提出し、博士論文の審査及び試験に合格すること。</li> </ul>						
履修科目等	<p>【コースワーク】必修コース（腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）、腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）を含む）、選択必修コース</p> <p>【リサーチワーク】講義、演習、実験・実習、研究・論文作成指導</p>						
がんに関する専門資格との連携							
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	新規治療標的分子の探索・同定を含めた創薬研究を経験できる。microRNAやlong non-coding RNAに着目した核酸医薬創出や疾患特異的バイオマーカーの探索などを体験できる。腫瘍形成・進展における多段階遺伝子発現制御機構について分子生物学的な基礎知識・最新研究手技を習得することが出来る。有効な治療薬のないがんに対する抗体医薬開発を目指して、難治性がんの特異的に発現する膜タンパク質のモノクローナル抗体を作製する。各臨床科と連携し、患者検体よりがんオルガノイドを作製し、上記研究に活用するとともに、染色や抗がん剤の奏功性を調べることで診断に寄与する技術開発を行う。						
指導体制	<p>【コースワーク】該当科目担当教員、腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）・腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）は関連5大学の講義担当教員</p> <p>【リサーチワーク】解剖学講座、医化学講座、病理学講座、心療内科学講座、呼吸器腫瘍内科学講座、内科学第一講座、腎泌尿器外科学講座、微生物学講座、皮膚科学講座に所属する各大学院教員が担う。</p>						
修了者の進路・キャリアパス	本学附属病院および地域関連病院において、個別化医療、プレジジョンメディシンに対応可能ながん専門医療人として、地域医療の促進および後進の育成に努める。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1	1	1	1	1	5
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	関係講座における過去の大学院生の受入実績をもとに設定。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	兵庫医科大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	がん患者における痛みの治療とケアのできる人材育成コース						
対象職種・分野	医学系研究科医科学専攻大学院生						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	がん医療における身体症状と精神症状の緩和は患者の予後の改善にも役立つことが知られている。本コースでは国際的にも通用する痛みの臨床研究を行うことで、将来の本邦におけるがん患者の痛みの治療とケアに関してリーダーとなり得る人材を育成する。						
修了要件・履修方法	必修科目38単位以上を履修し、論文審査を受け、最終試験に合格すること。						
履修科目等	<必修科目> 緩和医療学演習（2単位）、腫瘍外科学（2単位）、腫瘍内科学（8単位）、腫瘍診断学（12単位）、腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）（2単位）、腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）（2単位）、ほか2科目 <選択科目> 腫瘍分子生物学（4単位）、腫瘍薬理遺伝学（4単位）、職種横断的ケーススタディー演習（1単位）など						
がんに関する専門資格との連携	緩和医療専門医（日本緩和医療学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	国際的な視野をもち、独創的ながん研究を推進できる人材育成を目指して教育を行う。海外の研究者との交流も視野に入れ、海外学会での発表を行う。						
指導体制	麻酔科学・疼痛制御科学講座が主体となり、ペインクリニック分および緩和ケアセンターと連携して指導体制を構築する。						
修了者の進路・キャリアパス	修了後はそれぞれの専門性を生かして、がん患者の痛み治療とケアにおけるリーダーとして、臨床現場での活躍と教育、研究の推進を期待する。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		1	1	1	1	1	5
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	阪神地区における緩和ケアを積極的に行っている5施設において、将来のがん患者における痛みと治療とケアにおけるリーダーとなりうる人材を育成するため、計5名とした。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	兵庫医科大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	がんに対するインターベンショナル・ラジオロジー（IVR）・放射線治療トランスレーショナルリサーチ研究者養成コース						
対象職種・分野	医師、研究者						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	がんに対するインターベンショナル・ラジオロジー（IVR）や放射線治療に関わるトランスレーショナルリサーチを推進し、IVRや放射線治療とゲノム医療や免疫治療等を統合した新たな診断・治療方法の開発を担う人材を養成する。						
修了要件・履修方法	必須科目38単位以上を履修すること。分子生物学的、または免疫学的手法を用いたがんの基礎研究に関する実習を8週以上経験すること。論文審査を受け、最終試験に合格すること。						
履修科目等	<p>&lt;必修科目&gt;</p> 腫瘍学Ⅰ 基盤講義（医療現場・学際領域）、腫瘍学Ⅱ 横断講義（予防・研究開発）（2単位）、放射線医学総論（4単位）、画像診断学（4単位）、IVR（4単位）、放射線治療学（4単位）、核医学（4単位）、トランスレーショナルリサーチ総論（4単位）、分子生物学（4単位）、免疫学（4単位）、ほか2科目。 <p>&lt;選択科目&gt;</p> 分子生物学実習（8週）、免疫学実習（8週） 動物実験教育講習（2単位）、細胞培養技術講習（2単位）、ウエスタンブロット技術講習（2単位）、PCR技術講習（2単位）、フローサイトメトリー技術講習（2単位）、次世代シーケンサー技術講習（2単位）						
がんに関する専門資格との連携	放射線科専門医（日本医学放射線学会）、IVR専門医（日本IVR学会）、放射線治療専門医（日本放射線腫瘍学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がんに対するIVRや放射線治療は近年飛躍的に発展し、がん治療に大いに貢献している。近年、これらの治療の抗腫瘍効果は分子生物学的因子や免疫の影響を強く受けることが分かってきた。本コースの新規性・独創性は、トランスレーショナルリサーチの基盤となる分子生物学や免疫学の知識を習得し、IVRや放射線治療とゲノム医療や免疫治療等を統合した新たな診断・治療方法の開発を担うことができる人材を育成することである。国内外の研究者との定期的なリサーチミーティングも行い、幅広い視野や柔軟な思考力も育むことも目標とする。						
指導体制	本学には充実した研究施設が設置されており、動物実験を含めた実習設備環境には問題ない。IVR専門医や放射線治療専門医に加え、がんの分子生物学および免疫学研究を行っている基礎研究者も指導教官として指導し、がんに対するIVRや放射線治療に関わるトランスレーショナルリサーチの教育と実践を行える。すでに放射線医学教室と基礎研究室が密に連携し、多数のトランスレーショナルリサーチを行っている。また、国内および海外の研究者とも定期的なリサーチミーティングで情報交換を行っており、トランスレーショナルリサーチ研究実習に十分な体制が整っている。						
修了者の進路・キャリアパス	修了後は、大学やがんセンター、製薬会社等の研究施設で、それぞれの専門性を生かした新たながん治療開発や臨床試験を担う医師や研究者としての活躍を期待する。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。		2	2	2	2	2	10
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	阪神地域の関連施設にIVR専門医および放射線治療専門医の計2人を配置することを目標にすると、今後4年間で8人養成する必要がある。また、過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度2人程度の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を2人/年と設定した。						



## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	兵庫医科大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	がん免疫療法・ゲノム医療の実践・応用・新規開発のできるプロフェッショナルな多職種医療人および研究者養成コース						
対象職種・分野	医学系研究科医科学専攻大学院生（医師・薬剤師・看護師）						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	がん医療の中心は免疫療法とゲノム診療の時代となり、予後が改善したことでQOLも重視されており、プロフェッショナルな多職種連携が重要である。最新医療の実践と応用、多角的な患者サポートの実践と開発・新規診断治療法の開発のできるグローバルな視野と高度な専門知識・技能を持った、将来がん研究・教育・医療のリーダーとなる医療人および研究者を育成する。						
修了要件・履修方法	必修科目38単位以上を履修し、論文審査を受け、最終試験に合格すること。						
履修科目等	<必修科目> 腫瘍内科学（8単位）、腫瘍診断学（12単位）、腫瘍分子生物学（4単位）、腫瘍薬理遺伝学（4単位）、腫瘍学Ⅰ基盤講義（医療現場・学際領域）（2単位）、腫瘍学Ⅱ横断講義（予防・研究開発）（2単位） <選択科目> 腫瘍外科学（2単位）、緩和医療学演習（2単位）、職種横断的ケーススタディー演習（1単位）など						
がんに関する専門資格との連携	がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）・がん看護専門看護師・がん専門薬剤師の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	国際的視野をもち、独創的ながん診療の実践と応用、研究を推進できる人材育成を目指した教育を行う。看護学、薬学、基礎医学・臨床医学を包括した多職種のプロフェッショナルな医療人および研究者を育成する。						
指導体制	がん診療に関わる医学部各講座の教員および看護学部・薬学部の教員（非常勤講師）が連携して指導体制を構築する。						
修了者の進路・キャリアパス	がん薬物療法専門医・がん看護専門看護師・がん専門薬剤師の資格取得を目標とする。地域医療において専門性を生かしたがん診療を提供する。さらに、国際的な視野に立ち、研究・診療において国際的なリーダーとなる。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		2	2	2	2	2	10
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	これまでのがんプロでの大学院コースでは例年0～2名の入学者の実績があったため。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	兵庫医科大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	多様な医療ニーズに対応できる人材を育成する放射線治療インテンシブコース						
対象職種・分野	がん医療に携わる医療従事者						
修業年限（期間）	1～2年						
養成すべき人材像	がん放射線治療に関わる全ての医療従事者・研究者を対象に、放射線生物学、放射線物理学、高精度放射線治療等の放射線治療学に関する知識の習得を目指す人材						
修了要件・履修方法	Aコース：講義及び実習について下記を履修し、受講報告書を提出し、指導教員の評価を受ける。 Bコース：講義について下記を履修し、受講報告書を提出し、指導教員の評価を受ける。						
履修科目等	講義：腫瘍学Ⅰ 基盤講義（医療現場・学際領域）～腫瘍学Ⅱ 横断講義（予防・研究開発） 実習：160時間						
がんに関する専門資格との連携	放射線治療専門医（日本放射線腫瘍学会）の研修施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	当大学では共同実験研究施設および医学物理師などのスタッフが充実しており、放射線物理の研究実習に十分な体制が整っている。また国際的視野を持ったがん研究者育成を目的とし、海外研究者との交流、海外のがん専門医療機関と連携し教育を促進する。						
指導体制	大学においては、放射線治療専門医、医学物理師、放射線治療認定技師を指導教官とし、臨床現場での実習、並びに共同研究室での基礎研究をすすめる。また、麻酔科、腫瘍内科との院内ローテーションによりがん診療の幅広い知識・技能を習得させる。						
修了者の進路・キャリアパス	放射線治療分野の臨床において活躍の場を広げる、より専門的役割を目指す。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		2	2	2	2	2	10
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	阪神地域の関連施設に放射線治療専門医と医学物理士の計2人を配置することを目標にすると、今後5年間で10人養成できれば理想的である。よって、受入れ目標人数を2人/年と設定した。						

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	兵庫医科大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	痛みの治療・ケアに対応できる人材を育成する緩和ケアインテンシブコース						
対象職種・分野	がん医療に携わる医療従事者						
修業年限（期間）	1～2年						
養成すべき人材像	がんと診断された時からエンドオブライフにおけるがん患者の苦痛をコントロールする様々な方法を習得し、痛みの治療と様々な苦痛に対するケアが行える人材を養成する。						
修了要件・履修方法	【Aコース】講義および実習を履修し、受講報告書を提出し指導教員の評価を受ける。 【Bコース】講義を履修し、受講報告書を提出し指導教員の評価を受ける。						
履修科目等	講義：腫瘍学Ⅰ 基盤講義（医療現場・学際領域）～腫瘍学Ⅱ 横断講義（予防・研究開発） 実習：210時間						
がんに関する専門資格との連携	緩和医療専門医、認定看護師、緩和薬物療法専門薬剤師、緩和薬物療法認定薬剤師が、講義および実習を行う。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	実習では多職種が参加する緩和ケアチーム活動に参加することで、職種ごとに異なる視点や考え方を集約する過程を学ぶことができる。このため対象者を医師のみに限らず、看護師や薬剤師も含めて幅広い参加を求める。						
指導体制	緩和ケア専従医、ペインクリニック専門医、緩和ケア認定看護師、がん化学療法認定看護師が指導する。						
修了者の進路・キャリアパス	緩和医療専門医、認定看護師、緩和薬物療法専門薬剤師、緩和薬物療法認定薬剤師などを旨す。また科学的視点をもつ緩和医療の研究者の育成も旨す。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 <small>※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。</small>	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		2	2	2	2	2	10
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	阪神地区における緩和ケアを積極的に行っている5施設において、今後、がん患者における痛みと治療とケアに積極的に関わる人材を育成するため、1年度で2名、計10名とした。						

## 教育プログラム・コースの概要

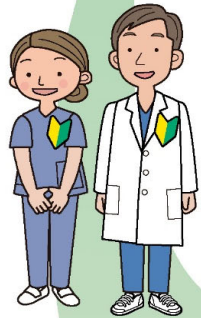
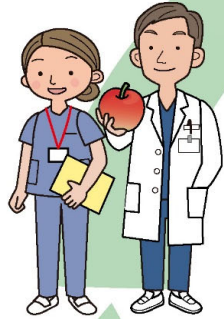
大学名等	兵庫医科大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	多様な医療ニーズに対応できる人材を育成する薬物療法インテンシブコース						
対象職種・分野	がん医療にかかわる医療従事者（医師、看護師、薬剤師）						
修業年限（期間）	1年						
養成すべき人材像	がん薬物療法に関する専門知識を技能を有し、地域がん医療に貢献できるがん専門医療人を要請する。						
修了要件・履修方法	所定の講義、実習を履修して受講報告書を提出し、指導教官の評価を受ける。						
履修科目等	講義：腫瘍学Ⅰ 基盤講義（医療現場・学際領域）～腫瘍学Ⅱ 横断講義（予防・研究開発） 実習：240時間						
がんに関する専門資格との連携	がん薬物療法専門医（日本臨床腫瘍学会）・がん看護専門看護師・がん専門薬剤師						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	がん診療の専門家として、実施医療現場医に最新の知識と治療を提供できる人材を育成する。臨床だけでなく、ゲノムも含めた最新の内容を提供する講義を用意することで、幅広い知識の習得を目指す。						
指導体制	がんセンターが中心となり、基礎医学、臨床系、さらに薬剤部、看護部が協力し、多職種の教官による指導体制を構築する。						
修了者の進路・キャリアパス	修了後は最新の知識と技能をもって、地域医療に貢献する。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		2	2	2	2	2	10
受入目標人数（養成目標人数）設定の考え方・根拠	これまでのがんプロでのインテンシブコースでは例年0～2名の受け入れの実績があったため。						

# 阪神5大学サステナブルがん人材養成プラン

近畿大学・大阪公立大学・神戸大学・関西医科大学・兵庫医科大学

## 持続可能ながんプロフェッショナル教育

がんプロ事業で  
育成された人材



### 地域に定着する がんプロ人材

高齢者医療・学際領域  
他領域と連携可能な人材

- 放射線治療医
- 病理診断医
- 緩和ケア医

### がん予防・ サバイバーケアの推進

先制医療の実施  
遺伝に強い人材

- ピアサポーター養成
- サバイバーケア
- がん予防

### 新たな治療法の開発

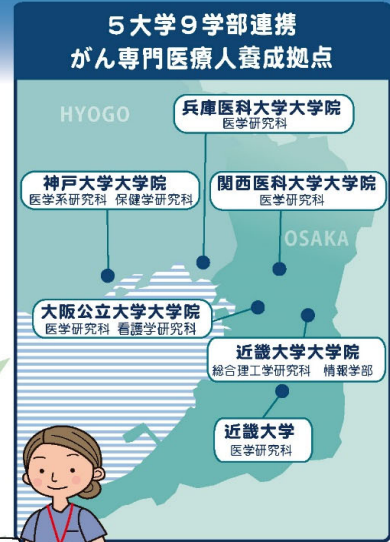
創薬や治療法の開発を担う人材  
免疫療法を担う人材

- ビッグデータの活用
- パイオインフォマティシャン
- がん専門薬剤師



新たな  
がんプロ教員へ

地域で  
活躍する人材に



### タスクフォース1：医療現場



がん学際領域…非がん領域とも連携  
分子病理診断・核医学・粒子線治療の教育  
医心連携による緩和ケア・ペインクリニック

### タスクフォース2：予防医療



ビッグデータを集積したバイオバンク構築  
先制医療に対する研究  
チーム医療における調整力を高める  
多角的なサバイバーに対するケアを学ぶ

### タスクフォース3：研究開発



分子標的治療・CAR-Tのプロを育成  
施設間連携  
免疫有害事象ミーティング「imNET」  
がん専門薬剤師・CRCの育成  
医師主導治験

がん専門医療人養成教育拠点

他のがんプロ拠点・  
患者会・NPOとの連携

